京城日報 夕刊

將軍府は廢止

孫軍松江占領 【上海二日發電】

對亞細亞方針 佛國上院議員の所說 【ボルドウ無電】

國際警察聯盟と朝鮮の警務行政（下）

法學博士 松井茂

[illegible]的運動の如きも内地の水平社運動と並び立ち大に警戒を要すべき問題である。萬一鮮人が徒らに自由平等主義に依り國家の統治を亂る如き事ありては實に由々しき大事である。[illegible]以上述べたる所は國際的方面より警察の範圍を論じたのであるが警察と國民性の問題も實に[illegible]

根本問題 であらねばならぬ、此意味に於て内地の警察と朝鮮の警察とは各特色あり亦同一鮮地に於ても南鮮と北鮮とは大に趣きを異にして居るのである。萬一鮮人が徒らに外觀に囚れ其國狀の如何を顧みず東京の警察を以て直に京城警察に適用せんとする如きは實に思はざるの甚だしき者と云はねばならぬ、要するに警察の行政は其土地に順應すべく行動するものなるが上に國民は其國家警察に[illegible]の行動にして其土地の警察行政と[illegible]について大に之れに共鳴し之れを援助せねばならぬ、余が先年朝鮮に遊び京城日報の主催に依り警察大講演會が京城に於て開催せられた時鮮人に此の旨を痛言したる所以も畢竟此の趣旨に外ならぬのである。當時余の演説に對し鮮人中には朝鮮警官が我々鮮人に對し[illegible]の點に關して批評を希望し居りたるにも拘らず此の點に付き批評を加へざりしを遺憾とすると云ふものもあつたが余は元より朝鮮警察當局者に對しては[illegible]鮮地の

活事情に 精通し活き居る一人である。故に余は三年前の警務局在任中にも常に此の事を主張し居たる所以で萬一警察官が職權を濫用し民衆に迷惑を及ぼすが如き行動あれば官民は宜しく相一致して之を糾彈せねばならぬと思ふ、[illegible]文化時代に至りては豫防警察と云ふが最も必要となるから此傾向に鑑み朝鮮に於ても特に[illegible]地方に於ては

文化警察 の方面に力を致すの必要あるは勿論である。先年平安北道に於て警察官が熱誠に鮮人に對しコレラ病の恐るべき事を宣傳したところ鮮人は却つて注射を恐れたと云ふ美談もある、平北地方に於て僅か斯の如き狀況なるゆゑに[illegible]地方の如きは一層之等の點に留意するの必要があるのである。

消防問題 の如きも鮮地に於ては内鮮人の一致心を醸成する上に於て何よりも生きたる訓練方法である故大いに之を獎勵したきものである。殊に都市計畫の問題の如きは保安衛生防火等の各方面に直接至大の關係を有するものにして近時釜山の如きも都市計畫に熱注せる如きは喜ぶべき現象である。朝鮮も人口増加し工場の設備増加するに從ひ火災の頻繁となるべきは當然なるが故に火災豫防及消防の事は文化警察の上に於て多大の注意を拂ふべき重大問題である、現に昨年[illegible]に於ては[illegible]所の大火災があつて三百萬圓の損害ありしと聞く、京城消防は余の在任中

小熊君を 推賞し今や小熊君は朝鮮消防界の第一人者として熱心に此の方面に貢獻せられて居るのは頗る人意を強ふする所以である余が先年京城に遊びたる時、暇を犯して世上所謂有名なる京城消防の演習を[illegible]往日を追想し一段の進歩の跡を見て頗る痛快に感じたのである。昨年發布された國民精神作興に關する詔書は畢竟大震災の後に鑑み國民が活動的精神を作興すべきの御趣旨に外ならぬ、火災豫防及消防の如きは實に生きたる自治上の活訓練にして之に因り國民精神の作興に裨益する事の甚大なるは想像以上である故に余は之等の方面よりも内鮮人の融和を計る如きも自治的訓練方法として最も適當なる手段であると信じてゐるものである

道廳移轉後の晋州

適當の事業を起す計畫

慶南道知事 和田純

慶南道廳に於ては[illegible]を受けて何等[illegible]として紹介するものはない、國費で行はれるものには地方廳として晋州市民が騷いだ慶南道廳の釜山移轉と云ふ大問題がある、四月一日迄には釜山で事務を執る運びであるから正月早々[illegible]の準備に着手される事と思ふ、現在の道廳舍は師範學校として永久に使用する譯と聞かされる筈である。其他晋州には道廳移轉後適當な事業を起される筈であるがまだ發表し得る時機に達して居ない。

普通學校の増設

平南道知事 米田甚太郎

新年度[illegible]の折柄だから大正十四年度もさつぱり昨年からの事業を繼續するより外道はない、尤も普通學校の新築は豫算の許す範圍內で成るべく多數にやり度いと思つてゐる、今後新設する普通學校は總て小規模の學校だから自然經費なども多額を要しない事になつてゐて本年度中には

二面一校 位の普及程度に達する筈で又例の[illegible]農業學校も昨年から普通校に附設したが成績が良好だから本年度に於ても更に七八校に附設し度いと思つてゐる、普通學校の學級増加は普通教育の普及を圖るため廣く廣くといふ意味で當分見合せ[illegible]ないもの〻外は實施せず[illegible]

太平洋は荒れる

法學博士 篠田治策

一

希望に充てる新年を迎へて、人は皆泰平の夢に醉ふて居る。朝鮮も至つて平穩無事だ、支那の内亂も治まつた、内地の政情も安定して居る、正に天下泰平の春と謂ひたいのであるが、我に昨年以來、吾人大和民族に課せられたる宿題がある。此宿題は勿論本年に持ち越したが、或は幾分の間は年々之を持ち越さねばならぬであらうと思ふ。吾人は此宿題に完全なる解答を與ふるまでは、居眠に醉ふて太平樂を並べて居る場合では無いと思ふ。

二

即ち此宿題は言ふまでも無く、米國議會に於ける排日立法と、新年早々實施せらるゝ、日本を假想敵國としての米國合衆國の海軍大演習である。排日立法の不當、不正、不義、不法、不徳なるは、今や彼の國人と雖も之を認めて居る。吾人は彼の國人中にも正義の士あるを識るが、多數が之を是認し國家の意思として發表した以上は、吾人は何處までも其國家を對象とせねばならぬ。彼國人中には吾等の友人もあり又大に我國に同情する者あるの故を以て吾人の猛烈なる憤懣の情を幾分なりとも緩和するの理由とはならぬ。吾人は彼等が國家として反省し、排日立法を訂正するまでは、何處までも反抗せねばならぬ。然るに米國は少しも反省の模樣なきのみならず、今回更に殆ど挑戰的態度とも謂ふべき海軍大演習を吾人の面前に開始するのである。然も其想定は布哇附近に出動したる日本海軍の制海權を得、進んで濠洲艦隊と連絡するといふのである。即ち米國の全海軍を擧げて之を擊退し太平洋に出動し、日本攻擊の豫行演習を爲すのであつて、此成績如何によりては[illegible]明かである。

三

最近に於ける米國の行動を見よ、彼れは其の代表が熱心に締結したる、對獨講和條約を批准しないし、從て國際聯盟に加入せずして、何時にても自由に戰爭を開始し得る態勢を保留し、日英同盟を破棄せしめた。日本の海軍を米國の六割に制限せしめた、自國の沿岸は勿論、布哇、アリユウシヤン群島の防備に何等の制限を受けざるに拘らず、日本をして小笠原、奄美大島に至るまで、防備を撤去せしめた。世界一週と稱して、[illegible]飛行機は日本の上空に[illegible]。昨年既に其飛行機はアリユーシヤン群島より日本に飛來する實驗を終つた。[illegible]ところは其海軍を以て日本攻擊の能否如何を試驗するのみである。彼等は今回の大演習によりて[illegible]諸種の缺點を補ひ、日本攻擊の完全を期するのである。

四

太平洋の彼方にて米國は斯の如く日本に對し、傍若無人の振舞を爲さんとして居る。太平洋の波は恐れに[illegible]。吾人は神風に信頼するの前に、人事を盡さねばならぬ[illegible]。我國は以來の歷史を正視せよ。而して相共に國力の發展に努力せねばならぬ。私の年頭の所感は概ね件の如くである

臥牛 庭山耕園氏筆

微力を盡す覺悟

朝鮮産業のため

東洋拓殖會社總裁 久保田政周

私は昨年十一月計らずも東洋拓殖會社總裁を拜命し就任早々鮮滿各地を視察し親しく實情を見聞し[illegible]の旅行ながらも相當見聞に[illegible]茲に大正十四年を迎へ爲に新たなる感がする處一入新なるを覺ゆるものである。即ち今年は[illegible]地を見聞して得たる智識と年來の抱負の一端を加味して微力ながら大に鮮滿の爲めに盡して見たいと云ふ希望を持つて年を迎へた次第である。

○

元來當社は朝鮮の拓殖事業經營の目的の下に設立せられたるものであつて期するところは朝鮮産業開發の達成にあり、又現に着々其實績を擧げつゝあるのであるが、其後歐洲戰亂に因る經濟界の變動に伴ふ當國の經濟的勢力の擴大進展等に[illegible]世間往々にして當社は其事業の地たる朝鮮を閑却せりとの批評を下す者あるに至つたが私は[illegible]旨に從ひ各地に於ける各般の業務中就中當社[illegible]朝鮮の地たる朝鮮産業の爲め[illegible]業の爲め及ぼすの[illegible]ながら微力を竭して見たいと思ふのである。

底力ある我道の産業

黄海道知事 矢鍋永三郎

新年に當りて我黄海道の産業を紹介するのは余の義務であると思ふ。我邦目下の急務は産業の振興に在るとは今更言ふ迄もない從て自分が今日盡すべき任務も矢張其事に最も重きを置かねばならぬのは當然である。由來朝鮮の産業は未だ幼稚なるが故に克く一擧手の勞を以て偉大なる成果を收め得るの狀態に在るが就中我黄海道は所謂眠れる獅子として又は謎の寶庫として恐るべき將來を有する地であることは、かねて耳にして居た處である、京城から海州までの一瞥は直ちに以て處女的の[illegible]られたる山岳の感を惹起せずには居れぬ、茫々たる滄海は徒らに魚族の繁殖と横行を見逃して居るの感がないでもない、一見して以て海に陸に幾多の寶が包藏せられて在る樣に窺はれる、

食糧問題

の解決上將又地方産業の開發上極力此有利な事業の紹介實現に努力致し度い者へである。[illegible]耕地の中二十萬町歩が水田に開拓されるとしても殘り三十四萬六千町歩は畑である、現在に於ける畑の收穫は粟を作つても麥を播いても或は豆を植へても先づ[illegible]乃至七斗位の收穫に過ぎない一[illegible]の收穫に換算しても普通反當五斗しか當らない、本道農家一戸當耕作反別は約二町三反歩に該當する[illegible]が斯樣な收入では如何に農村の文化を唱へても所謂空中樓閣を描くの類であつて何等文化的施設の試み樣がない、故に當面の問題は如何にして此廣漠たる土地を一層有利に活用し得るかにあるのであるが之につきては既に以前より唱道されてある通り先つ

養蠶を勸む

るに限ると思ふ養蠶は管内處として適せざるはなく[illegible]は實に全鮮無比の安全なる經營が出來るといふ事である、現在に於ては農民の智識至つて幼稚にして蠶業に對する理解に乏しく桑園の經營ある者至つて稀だ[illegible]は[illegible]に[illegible]へぬ、尤も先年朴知事が[illegible]せる五十本宛に依て地方民の蠶業に對する思想は幾らか[illegible]

優良種子

の更新も本府の方針と本道自身の計畫とによつて着々實行してゐるから米、粟、麥、大豆等の主要穀物は數年內に[illegible]の普及を終る事になつてゐる、其他各種の事業改良施設を[illegible]れば枚擧に暇ない程であるがアテ成るべく不言實行で着々やる心算でゐるから結果を見てみて頂き度い

本道耕地

の中三十萬町歩は悉く水田と成し得る見込であるさうだが假りに二十萬町歩を開拓し得たとせよ、反當一石五斗の玄米を收穫するならば即ち三百萬石の實收となる、現在約十二萬町歩の畓であるが灌漑不自由の爲めに其中比較的確實性を帶びたものは僅かに約七萬町歩であつて[illegible]年の收穫僅かに平均八十萬石內外に過ぎない、作付反別約十二萬町歩に對して八十萬石は反當七斗に達しない收穫であるが是は全く灌漑設備の缺陷から起る問題である、本道の水利事業は非常に有利であると思ふ、比較的纏つた土地に當るのは[illegible]は天水に依る畓を買收して之を計畫するとしても反當六七十圓の[illegible]圓で立派な畓を得るといふ事である、之を現在の畓價格（水利安全なるもの）百五十圓乃至二百圓に比すれば實に莫大なる利益と謂はねばならぬ、吾輩は國家[illegible]

肥料を施

さぬ爲めの弊害であつて肥料の供給さへ怠らねば決して弊害ではないといふ事であるさうだ夫れは如何にするかと云ふに本間題に對する研究が確實となつて居るので今は唯一の方針の下に即ち之を解決する事が出來る樣に思はれる此れは寔に本道に於て此根本問題の解決方法といふのは牧草として、又は緑肥としてルーサンの栽培である大作事である是により[illegible]此の解決方法[illegible]此の作物の收穫は増して獨り手に落手に作物の收穫は增加すること〻思ふ、余は本道の産業方面の底力の偉大さを喚起し度いと思ふ。

産業方面

では昨年來業にも地方的に着手して居る事業の方針は[illegible]校の地方移管に就ては移管後學校の經營に頗る傾向を來したり他に道所在の各校に於て[illegible]の事業が[illegible]になつては叶はないので[illegible]を圖り度いと思つてゐる。[illegible]依つて山間部數個所に[illegible]を獎勵し平地部地方には普通[illegible]方面の事業を實施しつゝある

節義傲青雲
文章高白雪
政周書

東拓總裁 久保田政周氏筆

短歌雜話

窪田空穂

一

二十六[illegible]といふ人の『[illegible]』[illegible]には、日本中の二十六人の歌が[illegible]常に澤山集められてゐる。この集には實に立派な歌が澤山ある。かういふ歌に、一つの形式に統一されたもの〻中に、私達は不思議に立派な作品を見出すことができる[illegible]の古典の[illegible]歌を集めた[illegible]が、いかに形式が勝れた作品を生み出させるものであるかを立派に證據立てゝゐるではないか。形式に信頼して制作をエンジョイしてゐる心持は、實に歌人や俳人の特典である。

二、藝術の鑑賞

日本の古來の文藝論は、その殆ど全部が歌論であつた。短歌論は藝術論としてのの序文から始まつて、今日に至るまでかなり澤山の論が[illegible]した研究も少しはあるが、その多くは師が弟子のために書いた[illegible]種のものであつて、何れもまとまつた藝術論とは言へないものばかりである。その點から言つても、日本の文藝の上に殘した功績は大きい。[illegible]の歌は傳統的に發展してきたものであるから、從つて歌を鑑賞する場合には必然的に古くさかのぼつてゆかなければならない。最初は自分の作歌を通して鑑賞を[illegible]せることが必要であるが、段々と鑑賞に藝術を鑑賞するためには、自らが創作の苦しみを味はつた人でなければならない。若しこの苦しみが[illegible]ぎるならば、自ら創作した經驗を持つた人には、他人の藝術を鑑賞する上にも正しい解釋をすることができると言ひ換へてもいゝ。歌人が自己の作歌の經驗から、他の他の創作の鑑賞をする場合にもこのことが言へると思ふ。藝術としての歌を眞に鑑賞することのできる人には、藝術としての歌以外の作品をも鑑賞なし得るに違ひない。そしてそれ等の人の數は實に多い。今日歌を作る人の鑑賞の努力が、一般文藝のレベルを高める上にも、相當の功績をあげてゐることも信ぜざるを得ない。彼等もまた隱れたところで、根深い藝術の仕事をしてゐるのだ。

三、歌作る精神

『どんなに小さく見えるものでも一旦精神を打ち込んでみると、その物が限りなく大きなものに變つて行つて、其處に一つの世界を發見して來るものである』とトルストイはある小說の中で言つてゐる。歌を見ても歌といふものは實際さうした趣きを持つたものだと思ふ。外觀的に見ると、歌ほど單純に見えるものはさう多くはない。しかし歌をさういふ風に見るのは極めて淺薄な見方であつて、そこをもう一步踏みこんで內面的に觀察すると、歌は精神の現れである。だからいゝ歌を詠まうとすれば、いゝ精神を持つてゐなければならない。しかしいゝ精神を持つといふことは人間生涯の大事であつて、たやすく口にさへも出來ないほどのことである。

他人の作歌を通して古典を味はふ心持へと延長してゆくべきである。さうして古く、廣く研究してゆけばゆく程、短歌が日本の文藝の上になした尊い働きが、如何に大きなものであるかとはつきりと解つてくる。

今日短歌を本氣で作つてゐる人に、試みに小說の批評をさせて見ると、かなり至當な鑑賞をする人が多い。またそれ等の人に小說を書かせて見ると、相當な作を書くこともできる。ところが小說家に歌の批評をさせると、實に噴飯たる場合が多いのである。

嘗つて故島村抱月氏が『歌集が[illegible]歌なぞ作ると、歌が小さくまとまつてしまつて、藝術の鑑賞が徹底してこない。』といふやうな意味のことを言つたことがある。さういふことも[illegible]ないとは言へないかもしれないが、しかし如何に小さな形式の中にとぢこもつてみたところで、藝術に對するその人の態度が本當でありさへすれば、不自由な[illegible]つた鑑賞などする筈がないのである。

今日歌を作つてゐる大抵の人が歌を歌としての歌だと考へてゐる人は殆どない。彼等は皆、藝術としての歌だと思つてゐるのである[illegible]な歌としての狹い範圍にとまつてゐる青年は今日見當らないのである。まだ若しさう云ふ人があるとしたら、彼等は自ら自分の藝術の範圍を狹めてゐるのだ。

本日本紙八頁

謹賀新年

水原金曜會
殖産銀行 電話一五支店
漢城銀行 電話四支店
水原金融組合 電話一五四番
華城金融組合 電話一七番

水原 小林五郎

水原公立普通學校長 本田榮三郎

水原本町 ヤナダ自轉車店 電話一〇四番

水原公立小學校長 田中三郎

朝鮮京釜線水原 米雜穀貿易商 青木商店 電話二〇番

水原城外 今村商店 電話一二五番 振替京城二〇四一番

水原仲町 食料雜貨卸小賣 勝田商店 電話一〇〇番 振替京城一五六三番

水原 野中末吉

京釜線水原 海産物其他諸貨物貿易委托販賣 水原物産商會 電話四八二番 振替京城四八五〇番

水原 池田市郎 電話一七四番

水原 香山弘 電話二六番

水原驛前 旅館 華城館 電話三一番

水原驛前 山本旅館 電話二八番

水原驛前郵便所長 苧田甫

綿布 糖粉 穀肥 雜貨 朝鮮水原南大門外四ツ角 移出入商 竹下平三郎商店 電話壹百拾六番 電話貳百拾六番 振替京城壹四六七番 電略號(タ)又ハ(タケ) 受信略號スイゲンタケシタ

水原醫師會
羅泰完 李鉉之 中友勇 阿部 吉原 田中 猪藤 東善三 徐助太

土木請負業 村上久一 營業所 水原 電話五二番 春川 電話六二番 海州 京城 南山町二丁目 電話二〇七番

水原煙草元賣捌組合

朝鮮水原 營業所 水原電話一七四番 島山 金良場 發安場 南陽 白岩

朝鮮水原 水原電氣株式會社 電話四九番

水原慈惠醫院 食堂員一同

朝鮮水原驛前 水原商事株式會社 運輸部 電話一二〇番

水原 寺澤捨三郎 電話一一三五四番

京畿道水原 株式會社 富國園 電話一三八番 電話二一一番

【水原本町】 加茂履物店 電話一〇八番 谷口小間物店 電話一三七番 山崎吳服店 電話四〇番

大正十四年度 朝鮮總督府豫算綱要

總額一億七千三百三十九萬二千餘圓

一月四日總督府發表

大正十四年朝鮮總督府特別會計豫算は歳計の現情に鑑み政府の方針に順應して行政及財政の根本的整理を斷行し新規經費に付ては朝鮮鐵道を直營としたるの外刻下の情況に照し緊切已み難き經費に限り增加計上した

歳入歳出豫算額並に前年度との比較

歳入

區別	十四年度豫算額	十三年度實行豫算額	比較 自然增減	整理減額	鐵道直營に依る增加	其他の新規增減	計
經常部	一四二、四四二、八六九	一〇一、三六六、八四四	△二、四六八、三八〇	六六、七〇〇	四二、四〇五、二〇〇	[illegible]	[illegible]
臨時部	三九、九二七、七〇九	三八、四四九、八二七	△八、九六六、四二七	一三六、三六九	七〇、〇〇〇	五、〇〇〇	一、四七八、一〇八
計	一八二、三七〇、五七八	一四〇、八一六、六七一	△一一、四三四、八〇七	二〇三、〇六九	四二、四七五、二〇〇	[illegible]	[illegible]

歳出

[illegible]

歳入增減內譯

一、自然增減額 二一、一九六、七〇〇圓

二、行政整理に伴ふ增減額 一四三、〇五九

內

中等學校移管に依る授業料收入減 △二四、七〇〇

阿片收入の減 △一五三、二七〇

病院移管に依る病院收入等の增 三五八、三三一

其の他 一三一、七二三

三、鐵道直營に依る鐵道收入の增 四二、四〇五、二〇〇

內

鐵道收入の增加 四五、六九四、八六六

南滿洲鐵道株式會社納付金の減 △八、四六六、三一六

其の他 七、〇〇〇

四、其の他新規增加 [illegible]

內

營林廠收入の增加 [illegible]

至急開通電話架設及新規開通電話料等の增加 [illegible]

土地拂下代 [illegible]

移出牛檢疫手數料 [illegible]

阿片檢定手數料其他 [illegible]

郵便收入の增加 [illegible]

郵便貯金取扱費一般會計より受入 [illegible]

其の他 [illegible]

歳出增減內譯

一、當然增減額 [illegible]

二、行政整理に依る減少額 [illegible]

內

節約に依る減少 [illegible]

事業の繰延に依るもの [illegible]

三、鐵道直營に依る增加 [illegible]

內

鐵道作業費 [illegible]

鐵道部經費の減少 [illegible]

鐵道用品資金特別會計へ繰入 [illegible]

四、新規增加の經費 [illegible]

內

勸業に關する經費 [illegible]

植桑獎勵に要する經費 [illegible]

造林補助 [illegible]

林業試驗場試植地設置に要する經費 [illegible]

灌漑及開墾事業費補助の增加 [illegible]

耕地改良事業の獎勵並監督に要する經費の增加 [illegible]

交通及通信に關する經費 [illegible]

私設鐵道補助の增加 [illegible]

契約更新に依る航路補助 [illegible]

放送無線電話監督に要する經費 [illegible]

至急開通電話加入者維持に要する經費 [illegible]

遞信與業員勸獎手當の增加 [illegible]

其他 [illegible]

教育に關する經費 [illegible]

京城帝國大學開設準備に要する經費 [illegible]

新設官立師範學校學級增加の經費 [illegible]

中等學校の經常費及建築費補助の增加 [illegible]

其の他教育補助の增加 [illegible]

衞生に關する經費 [illegible]

移出牛檢疫所增設に要する經費 [illegible]

防疫に對する汽車服役開始に要する經費 [illegible]

開城慈惠醫院開設に要する經費補助 [illegible]

阿片收納費 [illegible]

警察官給及土木に關する經費 [illegible]

龍塘浦江及萬頃江に對する治水事業費總費額九、三〇〇、〇〇〇圓の六ケ年繼續費とす [illegible]

京城第二期下水工事費補助 [illegible]

總工事費一、二五〇、〇〇〇圓の半額六二五、〇〇〇圓を十四年度以降六ケ年度に割合 [illegible]

新義州間鐵道聯絡道路工事費補助 [illegible]

開城池被里川改修工事費補助 [illegible]

電話費經費の減少 [illegible]

其の他 [illegible]

官業に關する經費の增減 [illegible]

專賣事業費の增加 [illegible]

營林廠事業費の增加 [illegible]

在外鮮人に對する施設費間島中央學校經費補助の增加 [illegible]

間島天圖鐵道補助の增加 [illegible]

朝鮮神社に要する經費 [illegible]

林野調査委員會費の增加 [illegible]

其の他の增減 △ [illegible]

朝鮮鐵道用品資金特別會計

朝鮮鐵道委託經營解除に伴ひ新に用品資金特別會計を設け其の歳入歳出各千七百五拾一萬八千三百三十六圓を計上した

十三、十四兩年度は公債は公募しない

現內閣の手で調達できるが 十五年度以降はどうする?

【東京電話】大正十四年度に發行すべき新規公債は總計一億五千萬圓に止まるが政府は一般市場の公募は避け內約八千萬圓を郵便局貯金部の引受とし約七千萬圓を大藏省預金部の引受とし償消化し得ざる約二千萬圓は鐵道特別會計に繰付けた殘りで、敎育振興基金特別會計に振付けて融通する事と定めたされば十三、十四兩年度の公債は現內閣の手で遂の途が就たが十五年度以降に於ける每年一億五千萬圓の公債は果して尙一般市場を煩はすことなく切り拔け得るであらうか財界の恢復期に入るらしい折に際して、又もや公債が經濟市場を壓迫する樣になればそれ丈け恢復を邪魔する事になるので十五年度以降も簡當分公債不公募を希望してゐるが果して如何か

辭令【東京電報】

秩父宮殿下には三日御成年に達せられたので四日左の如く辭令を發表された

皇子扶育官兼女子學習院長 松浦寅三郎

免本官專任女子學習院長(一等)

木內氏重態【船橋電報】

千葉縣市川町の別莊に靜養中の貴族院議員木內重四郎氏は去月十八日頃から高熱持續し三十一日重態に陷つた

露空軍擴張

【カウエン無電一日帝通經由】露國は目下空軍の擴張に努め露に伊太利フオッカース飛行機製造所に頁數の飛行機を注文した其他にも英佛兩國と飛行機購入の契約をなした

內府後任

容易にきまらぬ

【東京電報】平田內府の後任に關しては山本伯湯淺子等の呼聲高かつたが何れも一長一短あつて關係各方面を服從むる非常困難な事情があり爲に一停頓の姿であるが最近に至り某方面から突如として東郷元帥を推すに至つた元帥の人格經歷は內府として最も適任者であるが其の生涯は純然たる武人で內府の一資格たる政治的經歷が缺如してゐる點に於て容易に首肯し難しとせられてゐるさりながら一部には有力な候補者として擧がれてゐるは事實である更に牧野宮相があるが宮相の後任問題が絡む爲めに之れ又容易に決定し難く爲許內府の後任は容易に決定し難しとせられてゐる

新舊兩年に於ける 朝鮮鐵道事業(三)

總督府鐵道部長 弓削幸太郎

三 私設鐵道の補助狀況及補助施設

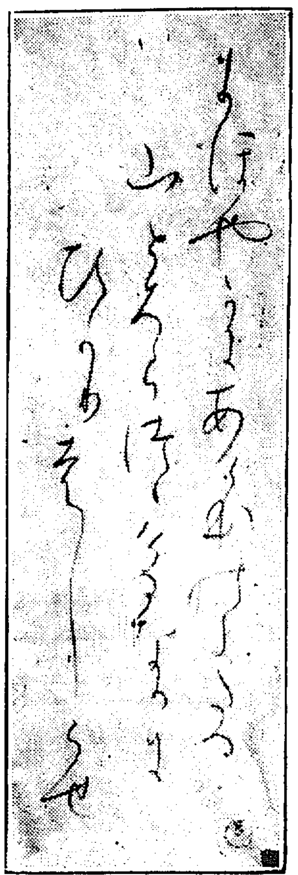
十三年中に私鐵會社が增加したる資金は約八百萬圓に上つたが此の內七百三十萬圓は朝鮮鐵道會社の社債又は借入金に依るもの七十萬圓は金剛山電鐵、京南鐵道、圖們鐵道の三會社の資本增加、借入金、社債又は借入金に依るもので年末現在の補助標準資金は五千三十萬圓に達した。耐して之に對する十三年度の補助豫算額は二百八十三萬圓、之に前年度よりの繰越額六十八萬圓を加へ合計三百五十一萬圓で十二年度より九十六萬圓を増加した。之に對し補助支出見込額は約三百二十五萬圓で約二十六萬圓を十四年度に繰越す見込である。

補助金の增加を來して居る一因としては資金が豫期以下に少きことを擧げねばならぬのであつて、經濟界の不況に依り收入額も少額に止まり支出は之に應じて各社とも極力緊縮を圖り殊に朝鮮鐵道會社の合併に依り節約し得た經費は數十萬圓に上つたのであるが一般に景氣一向に回復を見ない時に際して、下財界の不況の大勢とは如何とも致し難く資金は資本に對し一分五厘位に過ぎなかつたのである

私設鐵道補助の豫算は當年度は繼續工事に係る線路を速かに相當目的地に到達せしむる必要上今後數年間は一ケ年當投資額の增加を來す見込もあるから現行補助法の補助金最高年額は十四年度より之を增加する必要を生じたるを以て此の際法律の改正を行ひ補助最高額を四百五十萬圓に增額することゝし本年度豫算は差當り四百萬圓を計上するの計劃である

四、國有鐵道經營方法の變更

大正十三年より十四年へ掛けての朝鮮に於ける鐵道事業としての最も著しきものは國有鐵道經營方法の變更で即ち滿鐵會社との委託契約を解除して之を總督府の直營に移さむとするのである國有鐵道は大正六年八月以來其建設改良の工事は總督府が國有鐵道の經營を滿鐵會社に委託し、建設改良の計畫を樹つる外其の一般經營方法の變更は總督府の直營で其他附帶事業一切に於て之を行ふ事とし又其資金は總督府より支出する事とし、滿鐵よりは年二定の金額を納付せしむる事とし、今日に及んだのであるが抑も委託經營なるものは元來



尾上柴舟氏試筆 にほやかにあけぼのしたる山と空つゝけるなかにひかりはしらせ

乙丑元旦 松寺法務局長試筆

御用始式 四日行はる

總督府

總督府に於ては四日東京出張中の下岡政務總監に代り上記部長以下課長以上全部集合午前十一時から式は始まり總督は一同に對して左の如き訓示を與へた。

大正十三年は多事多端の年であつたに拘はらず、政務總監以下各位の非常なる努力と思慮とによつて無事越年を見るに至つた事は大いに欣快とする所であります。茲に大正十四年を迎へた諸氏は更に一層倍し一層の奮勵と努力とを續け、以て朝鮮統治の爲め貢獻する所益々大ならんことを希望するや切であります。茲に本日御用始式に臨んで一言所懷を述べる次第であります

總監代理として下岡政務總監に代り生田內務局長一同を代表して左の如く挨拶を述べた。

本日は御用始式に際し只今總督より懇篤なる御訓示を頂きましたが、昨年は幸に總督の御指導の下に我々も大過なく其の職分を盡して來ました。茲に新まる年と共に只今の御訓示の趣旨に副ふべく、我々の及ぶ限りの努力を拂ひ、以て些かなりとも朝鮮統治の爲め貢獻したいと思ひます。茲に御用始式に際し一同に代つて一言御挨拶申あげる次第であります。

遞信局專賣局

遞信局及專賣局に於ては各局部長は更に局部員を集めて午前十一時半全く總督府の御用始式を終るに至つた

京城道

京畿道廳に於ては四日午前十一時より夫々始式を擧行し一同は知事より挨拶があつた

黨勢擴張とか

內地の地方問題に深入りして重要なる此の朝鮮問題を閑却せんとするの風あることは實に憾み多くに堪へざる所である。內地の小政黨や無節操の政治家は一成を絶叫する政治家はあるけれども朝鮮の鐵道や港灣の施設、産業の開發を計らんとして政黨が利用する此の朝鮮の空氣の澱んだ事である。之は更に非常に利用されつゝあるかも知れないが、朝鮮の國防上及經濟の上には凡ゆる勢力を盡して此の大事業を成就せしめたいと思ふ

殖民地と朝鮮 とを同一に論ぜんとする者も少くないのであるが、之は非常なる誤りである

朝鮮財政の獨立とか、本國經濟に對する貢獻とか云ふことを主眼とする議は多くは斯かる思想から出るのであるが、之は日鮮併合の本旨を沒却するばかりでなく、朝鮮の實狀とか、朝鮮の帝國に於ける地位等を全く忘れた議論である、朝鮮の經濟的安定は我政治的安定の前提であり、而して其の經濟的安定は主として本國の出資又は援助に待たねばならぬことは勿論である

上海の位置

上海は外海を離れて揚子江を溯る事六十哩にして吳淞江の支流に入り又溯る事二十哩にして初めて上海港に達するに拘らず同港は東洋一の貿易港と稱せられ最近の貿易總額は十四億見當に達し人口又我大阪府と匹敵する僅かに東都隅田川の倍半に過ぎないが其繫留せる汽船は常に夥しく百有餘に達し天與の良港と相俟つて貿易の殷賑常くの外ない

阿片戰爭の結果

上海は阿片戰爭敗戰の結果千八百四十二年に開港され英米人の根底は極めて强固な者で現在上海で活動してゐる彼等は皆上海で活れた者が殆んど十中の八九を占むるのである從て支那人との關係支那人に對する勢力の偉大なる事は格別であつて此點は十分れ老區してかゝらねば以外の失敗を招くのである上海が支那領で不死の形勢丈は遜つているもされ彼方此方の公園に『支那人と犬は入るを禁ず』で歐米人の天下と云つて然りであるされば彼等は何事も米人等の云ふが儘に動くのである事大主義は遁げられた民族の特質と云はねばならぬ

氣候

上海は北緯三十一度十五分東經百二十一度二十七分即ち我薩隅大隅の南部と略同じ今試に三年平均の氣溫を示せば

一月三十八度 二月三十九度

三月四十六度 四月五十六度

五月六十六度 六月七十四度

七月八十一度 八月八十二度

九月七十三度 十月六十四度

十月五十三度 十二月四十七度

氣候の變化は生栗の保存及取扱に及ぼす影響少くない同業者注意の爲特記す

上海商人氣質

上海の支那人は悉く各省よりの寄合である故に其日用語の如きも一種の上海語なるものを生ずるに至つた從つて各支那人は其出身省國等を組織して互に連絡を保つ、上海在住の支那人氣質は北支那人とは頗る其趣きを異にし精悍にして且神經的である、北上海は國際的貿易競爭地たるのみならず土著と外來と或は南北兩地の思想的性格を混淆して一種上海氣質を化成したるにあらざるが從て新に支那商人と取引を開かんとするもの或は上海に物品賣込を試さんと欲する者は先此特質を注意諒解するの要がある

伊太利內閣は近いうちに瓦解か

が…更迭は容易でない

【羅馬一日發電】最近伊太利政府より出る種々の報告のため首相ムソリーニ一派は國民一般の興望を失ひ彼の地位を維持すること困難となりつゝ近く內閣瓦解の危機が迫つてゐるサラドヤ乃至ジョリッチ等の前首相が後繼內閣組織の衝に當るであらうとも傳へられてゐるが實際の更迭は容易でないらしい

反對派新聞發行停止

【羅馬一日發電】伊太利政府はモンド、ジオルナルイタリア、及びポポロ其他反對派の主なる新聞發行を停止しつゝあり多數の群衆は宮街に首相ムソリニ氏を待ち受け彼の顔を見るや熱狂的示威運動をなし彼を援助する勢を示した、群衆は容易に立去らずムソリニ首相は自働車を止め彼等と握手するの餘儀なきに至つた

聯合國財政長官會議

【巴里三日發電】聯合國財政長官會議は豫ねて豫定された八日を一日繰上七日より開會せらるべき旨發表された尙ブラッセルよりの電報に據ると白耳義首相テュニス氏はインフルエンザの爲め與留中の處快方に向ひ右會議に參列すべく期待してゐると

獨逸政局混沌

右黨內閣が實現するらしい

【伯林三日發電】獨逸政局は依然混沌の狀態である獨政界に微妙の色あり大統領エベルト氏は現國務總理マルクス氏に對し政局を維持し得るだけの多數を議會に於て贏ち得る方策を樹て新內閣組織の任に當らん事を要求した、國民黨エマードバリ紙伯林通信は次期獨逸內閣はストレーゼマンを中心とする右黨內閣であらうと豫測してゐる

歐洲藏相會議

【ボルドウ無電】歐洲聯合國藏相會議は一月七日倫敦に開催に決定した

朝鮮空備擴張

財源の許す限り實施

【東京電報】陸軍は國防計畫の一環として航空隊の擴張をする事は既報の通りであるが先づ新設師團として飛行隊一ケ大隊及び聯隊を各一ケ所宛擴張する筈であるが何れも三中隊一ケ大隊編成であつて目下候補地に就て研究中であるが飛行隊は國防上第一線地に新設する必要あるを以て多分京城市郊外に置くことゝなるべく其他は臺灣、朝鮮、南九州方面に新設すること、なる可く朝鮮は經濟的に最も緊要なる飛行隊が最も良く且つ我國防上から見ても少くとも二ケ大隊以上の飛行機が必要であるから今後大いに擴張する必要があるを以て陸軍は財源に餘裕があれば大いに擴張する考へを以て居ると

鐵道第一

法學博士 和田一郎

鐵道第一主義は誠に結構である、而して鐵道は其理想として鐵道網一部分を完成したい、朝鮮は何とかしてこの鐵道網を完成せしめたい

朝鮮林檎排斥と發展策(二)

穗坂秀一

上海市場に於て朝鮮林檎の排斥が起つた事は米國に對抗する爲めに排斥の如き組合規定に基き相當の制裁を加へる事を附言した、元來支那人と取引はツキモノである彼等が團體的排斥をなすときは必ず國貨提唱と日貨排斥を主張するのである此の排日に付いては國貨提唱と云ふ意味は見へないがつまり米國輸出の商略から出たこと、考へられる、今排日理由と其擴張策を述ふる前に先づ序說として上海市場の

茶話

◇正月も四日になつたが、近所正月氣分が何時までも殘つて居る間にぐんぐん日が進んで、それとなく氣の付いたときはもう大分世の中に遲れた閑な氣のするものだ▲加藤首相は本年は新日本から新日本へ飛躍すべき年だと云つて居る▲全く大正十四年は新な日本への一步へ出づべきほどの變革を有せねばならぬ大切な年である▲と共に國民としては少しの油斷もなく進み行く日本と云ふものを凝視せねばならぬ年だ▲犬養遞相は本年は日本が進步する爲めの大英斷があると云つて居たが▲豊夫此際陣の策竹を握つて筮を立つて稱と遜つた犬養翁の云ふ事だから當るも八卦、當らぬも八卦と云ふのとは少し意味が違ふであらう▲然らば犬養翁の云ふ所、要して何を意味してゐるのであらうか。

天氣豫報(五日)

晴 一時曇

四日正午 攝氏 零下六度五

四日 最高 攝氏 零下一〇度三

三日 最低 攝氏 一三度一

恭賀新正

中華民國 領事 辛寶慈 釜山駐在

釜山學校組合評議員 二葉商會主 矢頭伊吉 電話一四三四番

釜山 大池源二

慶南東萊郡東萊 東萊高等普通學校 職員一同

株式會社 東萊銀行

東萊警察署員一同

釜山驛前 松本旅館 長電話一〇二番

釜山學校組合評議員 安河內千吉 釜山府

釜山驛前 高島屋菓舖 電話三六六五〇

龍頭山神社 谷口芳春

山崎 澁谷 合同代書 寶水町 電話一七二

釜山 脇谷洋次郎

慶尙南道水産會 副會長 池內猪三郎

築城部鎭海灣支部長 工兵中佐 山內三吾

釜山 朝鮮瓦斯電氣株式會社

南鮮土木建築協會 釜山府岸本町五番地 電話長一四〇六番

釜山綠町貸座敷組合

釜山府富平町一丁目 西條鐵工所 主 西條利八 電話四一二番

釜山大倉町十番地 米倉ゴム工業所釜山支店 支店長 米倉淸三郎 電話一六一五八四八七番

合資會社 密陽銀行 代表者 森藤幸松

密陽 城內 株式會社 慶一銀行密陽支店

密陽 驛前 株式會社 慶一銀行密陽支店 驛前派出所

釜山 坂田文吉

朝鮮輪業合資會社 內山柳藥 釜山府池ノ町四 電話長八五八

釜山商業會議所 評議員 澤山寅彥

釜山商業會議所 評議員 木下元治郎

釜山府立病院 菊池源造 齊藤良助

各地の元旦

晋州 [illegible]

光州 [illegible]

京城消防隊組の新年出初式
勇壯なる梯子乘り(圓内は)馬野警察部長の訓示

元始祭 いと壯嚴に行はせらる

三日は元始祭に當るを以て宮中賢所皇靈殿神殿にて御親祭あらせ給ふ先づ午前九時三殿御裝飾を終り式部職員[illegible]樂裡に三殿の御扉を開き[illegible]所皇靈殿には[illegible]神殿には飯、餅、海[illegible]、川魚、野菜、菓子、鹽、水以上十一案の外酒二瓶を供し錦一卷紅白絹各一匹晒布二端以上一案宛を供し、次で秩父宮殿下を始め奉り御在京の各皇族以下大勳位親任官公爵從一位勳一等侯爵正二位勳二等男爵[illegible]錦[illegible]祗候着席し午前十時攝政宮殿下には綾綺殿に出御御束帶を召させ御手水の後九條掌典長の御先導にて賢所を始め皇靈殿の御座に進ませられ御玉串を奉り御拜禮あり御告文を奏せられ畢つて入御あらせ給ひ次いで良子女王殿下秩父宮殿下以下御參列の各皇族王族以下着床の諸員順次拜禮終つて再び奏樂裡に御幣物神饌を撤し御扉を閉じ各員徐々に退出して畢せらる

三日祭

三日早朝より始祭に先立ち三殿下の御前に於て九條掌典長以下前日同樣の次第に依り御祭典を行はせ給ふ(東京電報)

月と同容積の流星 地球を掠めて飛ぶ

【羅馬二日發電】伊太利ミラの天文臺の報告に依ると月と同じ容積の流星が地球を掠めてカシオピア星座の方に進行してゐることを發見したと

訓練院の空に水龍躍る
恒例の京城消防出初式
勇壯整然たる組員の活動と その妙技に見物の歡呼止まず

恒例の京城消防組出初式は四日午前九時より訓練院で零下十五度の嚴寒を冒し最も勇壯に盛大に擧行された。參加の部隊は常備消防手百二十八、京城、龍山、仁川の三義勇消防組員二百十三、蒸汽ポンプ、腕用ポンプ、瓦斯自動車、水管車を始め腕用ポンプ十三、水管車十九等で京城消防の精鋭を網羅し誠に空前の京城消防の威容を示すの概があつた。朝七時眠りを破つて打出された余[illegible]初め狼煙として那須憲兵司令官、小川京城地方法院長以下官民百餘名市内各鐘樓の警鐘の音に各隊組員總て出動し隊伍を整へて八時半式場に到着し間もなく九時に時實知事着場、馬野警察部長、谷京城府尹、代理長尾內務部長、各課長等を始め府民が輪を作つて壯觀を呈した。定刻九時開式し知事の閲兵に乘り小熊消防課長の先導で式場北側に整列、隊を先頭として蜿蜒町餘に亙つて整列した各隊組を巡閲し續いて隊組順次に分列行進に移り瀬々として鎧鐘を鳴し乍ら式場を一周し終つて當日の呼物たる演技に入り最初京城及び龍山消防隊の梯子乘を演じ六基の梯子の上で各美事なる放れ業を演出し觀覽者一同喝采を博し終つて常備消防隊出初めの放水に移り折から梯子渦の出火の急報に依り一分隊は直に出動した外豫め二臺の自動車ポンプ出動直に放水準備を行ひ式場中央に設けた高さ百尺の提灯に水龍を飛出させ十分を要せずして提灯破ると見れば其中より數十個の風船散亂し「用心安全第一」等の宣傳紙現はれ觀衆は再び歡呼して動揺めき渡つた。斯くて消防演技も無事に終り隊組員一同再び官廳の前に集合し馬野部長訓示を朗讀し時實知事より左記の永年勤續者六名

京畿道消防手 福永龜太郎
同 黄順柱
龍山消防組總代 小頭 猪又長右衛門
同 組頭 山下留吉
同 消防手 中島松藏
同 高木種吉

に表彰狀を授與し知事部長府尹より各隊組に對し夫々酒肴料目錄を授與し十時十分全く閉式し解散後一同は更に隊伍を整へて總督府、政務總監邸、知事邸、警察部長邸を順次に訪問して萬歲を唱へ午後に入つて漸く解散した。

消防新年宴會

龍山義勇消防組では四日出初め式に出動し五日午後三時より京城局食堂に組員及關係者を招待して新年宴會を催す由

各地の出初式

大田 大田消防組は恒例に依り四日午前八時より大田驛前廣場に於て出初式を擧行し服裝整然と道知事、部長の訓示講評を了へて市内を一巡し要所々々に於て梯子登りを行ひ[illegible]

全州 全州消防組では例年の通り四日午前十時より第一普通學校々庭に於て出初式を擧行し[illegible]の梯子乘りの妙技を見せ午後五時から[illegible]ふた消防組頭[illegible]木[illegible]次郎氏は同日午後四時より關係者を料亭富士家に招待し宴會を催した

仁川 仁川消防組では五日午後四時より[illegible]に於て新年宴會を催す筈

浦項 浦項消防組では恒例に依り一月四日午前九時より出初式を盛大に擧行した

平壤 恒例に依る平壤消防出初式は四日午前九時平壤府廳前に常備三十六名義勇百名集合し[illegible]

天孫降臨の靈地で 教員の不敬事件
拜賀式場で大亂鬪を演ず

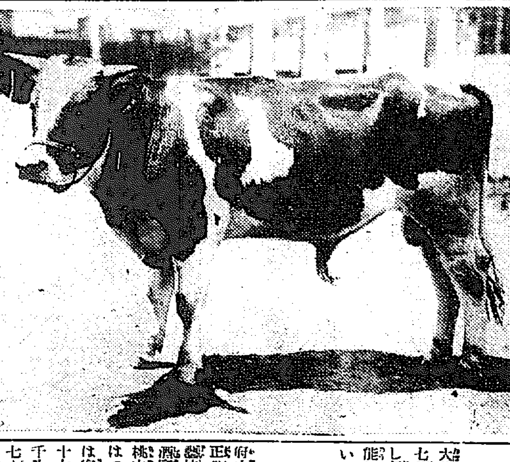
天孫降臨の靈地鹿兒島縣始良郡牧園村霧島温泉附近の小學校では一日朝十時から同校講堂で生徒及村内有志等約五百名參集拜賀式を擧げ田中校長は約三十分に亙つて神話修養に關する講話を爲し式を終はらんとした折柄同校訓導で目下鹿兒島縣川邊郡加世田町の常小學校の訓導石原某(二三)が演壇に上り御眞影を前にして現今の思想問題を說きたる不敬の言辭を弄したので同村有志は憤慨し壇上に押し上つて壇上から引摺り下して一場の亂鬪となり式場は混亂の巷と化し漸く鎭まつたが有志は其の處置に付き協議中である事件の經過に對して斯くの如き不敬事件を出した事は甚だ遺憾であると鹿兒島縣の教育界に於ては[illegible]すものとして之が處分方を縣當局に迫るべく協議中(鹿兒島電報)

持兇器の警官侵入
蜂須賀侯爵邸に

一日夜七時頃芝三田綱町蜂須賀侯爵邸へ短刀を持つた警官が忍び込み奥座敷にあつた貴族院議員章や禁止めを盜み逃走せんとするを家人に發見され捕へた三田署で目下取調べ中(東京電報)

[illegible]

依相府長より一場の訓示あり終つて入隊遊び器具の點檢あり次いで十年及十五年勤續した戸田氏外十名の表彰があつた其後義勇消防は市内の有志宅を訪問し梯子乘をやつたが當日は暖かい日であつたので見物人で市中は大へんな賑ひであつた同日商議始め各官廳は四日御用始の式を行つた(平壤特電)



朝鮮一の種牛
時實知事さんの自慢のモー君

此歳で天下のモウ〳〵連が眼を得て京城道が十三年の五月十五日に地方費二千圓を投じて北海道札幌の酮川から購入し落京町の肥育牧場に依託して飼育中のホルスタイン種三歳の牡牛が一世アックラムマア君の日なたぼつこの處

失れだ。頗る長い名の持主で第十一世サー「ホームスビー、チザランド、アックラムマアと云ふのだから堂々たるものである。體長四尺九寸毛色は黑白斑の立派なもので特徴は一文字の凛然とした角、眉間や臀の大きな旋の巻き具合等愛すべきモー君である。水原にも同系統の牡牛が一頭居るが夫れを除けば鮮内でも自慢な牛だとは頭ら時實知事さんの自慢ばかりではないらしい。府内牛乳業の爲めに從々健鬪を祈る。(寫眞は第十一世アックラムマア君の日なたぼつこの處)

數人組の強盜團
農家に闖入して金品強奪

二日午前三時頃、全北高敞郡富安面吾山里農業尹某方に覆面したる數名の兇漢が闖入して匁渡り四寸餘の庖丁を擬し凄文句を並べて家人を脅迫し箪笥の中から現金並に價格三十圓、現金一圓を強奪し立ち去つたが駐在所巡査と村の消防等の協力活動により直に取押へられた犯人は同里無職金某(二〇)外數名の共謀なる事判明したが他に餘罪ある見込で目下關係者取調べ中

大晦日の三越 賣上高二百五十萬圓

不景氣だ不景氣だと云ふた暮の三十一日三越では一日二百四十五萬圓の賣上を得て開店以來のレコードを作り店員に一圓の給料を奮發したそうだ(東京電報)

主義者連が料理屋で大亂鬪
懇親會席上に乘込んで

北風會、火曜會を中心とする鮮人主義者百二十餘名は三日夜八時半府内敦義洞一一四の支那料理悦賓樓で懇親會を開いたが開宴中從て反目し合つてゐた赤雹團の一味五六十名は突如悦賓樓に押し寄せ椅子ビール瓶等を以て宴會場に闖入し毆り合をはじめた結果多數に怪我人を出した所が同樓から驚退し出た直に叫はず赤雹團は門の内外から睨み合の儘中鍾路署から駈け付け双方に解散を命じ漸く落着したが一時は血の雨を降らさんばかりの形勢で喧嘩を繰めた爲今後如何なる事件を惹起せんやも計り知れないので鍾路署では嚴戒して居る

火夫長が汽船沈沒の恐しい陰謀

一日午後[illegible]に入港した大阪[illegible]同社[illegible]號(四[illegible]噸)[illegible]火夫長が[illegible]の爲め[illegible]とする[illegible]逆賊が發見し大騷ぎとなり幸うじて危險狀態から脱する事を得た原因は火夫長荻野元吉(三〇)が機關部員の一部を味方に引き入れ機關の火を消し運力を中止し本船を沈沒せしめんと企て時化を機關長に[illegible]沈せようと云ふ計畫であつたらしい(大阪電報)

列車襲撃事件
重大問題化す

【北京二日發電】三十日の天津附近列車襲撃事件に關し外人側に於て漸く重大化せんとしつゝあり當地の英、米、日、佛、伊等の公使團は猛烈に非難してゐる

前借金踏倒し

四日朝本町署の刑事室で三十位の商賣人風の内地人女が取調べを受けて居たが女は山口縣豐浦郡神田村生れ崎野トワ(二七)と云ふ女で去る十二月二十八日府内黃金町五八飲食店本安岩熊方に百五十圓の前借で女中に抱へられ三十日午後四時頃その金を踏み倒して逃走した足で黃金町二ノ一四八の飲食店出村ツノ方で百圓を借り之又同樣踏み倒す算段であつた所を被害者から發見され共警に突出されたものであると

通行人に暴行
四人組の無頼漢

府内漢洞二一〇方冠[illegible](二八)外三名は一團となり彰義洞附近の路上で通行人を待ち伏せ暴行を加へて居た所二日午後七時半頃現場に於て四人共鍾路署の手に取押へらる

龍山署初獲物

元旦の午後一時頃龍山署員が府内三丁目を巡回中年始客に紛れ挙動不審の男を發見し取調べた所此奴は自稱[illegible]松本某(二二)と云ひ十二月初め[illegible]町三丁目[illegible]

重大犯人
東京に護送

多數以來京都地方裁判所檢事局で取調べを續けてゐた某重大犯人某谷與一郎(二七)に係る取調べは三十一日を以て一先づ終了したので前に豫審判事の令狀を執行し松原署より京都刑務所に收監され〇〇を製造する際工場を貸した京都府下某部町鍛冶職船越某は三十一日夜一先づ歸宅を許されたが更に事件は益々擴大の模樣にて京都地方裁判所檢事局は東京地方裁判所檢事局と連絡をとり引續き取調べを行つてゐるが右犯人新谷は一兩日中に東京に護送せらるゝ事になつた(京都電報)

郵便配達夫
同盟罷業 元旦の朝から

大分縣速見郡杵築郵便局配達夫十七名は元旦の朝から同盟罷業をなし年賀狀を貯め一般郵便物配達不能に陷つた原因は待遇の不平らしい(門司電報)

お正月の廓
何處も大繁昌

府内旭町新町南山町方面の各料理屋は正月三日間は殆ど休業し父兄の酒宴に招かれたがその反對に新町桃山の遊廓は元日早々の景氣で賑はつた、新町の揚高をみるに元旦は妓數四百六人、金額四千七百六十七圓、二日は四百二十七人の五千八百五十八圓、三日は六百六十七人の六千四十三圓と云ふ調子で流石正月らしい收入だつた

支那大赦令

【北京二日發電】一日附臨時執政令を以て民國元年の大赦に倣ひ殺人放火犯を除く總ての犯罪人に對し大赦を行ふべき旨發表された、然し曹錕氏や賄選議員等はこの大赦に漏れた

學生の服を盜む

府内太平町二ノ一七〇鐵鐵文(二)こは自宅に寄宿中の中東學校生徒の制服等を竊取二回に亘り竊取し入質したこと發覺三日夜本町署に引致された

金時計を盜む

府内三成洞六尹某(二)は三日午前一時頃貫鐵洞三四の三山旅館方某の室に忍び入り同人の金時計價格二百圓を竊取し八十圓で入質した所を同日鍾路署の鈴木刑事が探知し四日午前一時頃自宅に踏込み中を逮捕へた

醉つて大喧嘩

府内都染洞二〇季鍾烈(二八)と敦義洞五〇張錫鎬(二七)は四日午前四時半公平洞太西旅館で飮酒中喧嘩をはじめ双方血みどろになつて爭鬪中兩人共鍾路署に檢束された

公娼廢止宣傳

小島文雄社では人道上から公娼制度の不合理と矛盾を說いたビラ數千枚を印刷し五名の同人が二日の降雪を衝して通行人に配布した

警察御用始

府内各警察署では四日午前十一時訓示等に依て御用始め式を擧行した

無勢力の支那官憲
馬賊の横行盛ん

間島の各地に有力な馬賊團が横行する都度中國側の警備力が僞用を失し殊に今回の安圖縣城襲擊當時の如きは非常見る者をして呆然たらしむる程の無力さでありたとかで近來は鮮人側にあつてすら一旦事あらば到底頼むに足らずと論議されるに至つたが流石に此の論議を受ける支那側にとつては中々苦痛であるらしく種々名譽挽回策を講じてゐる而し延吉管内屯田營に駐屯する支那陸軍第三營第十連第二排々長余水潔(去る大正七年七月十八日馬賊團が八道溝を襲擊した際其頭目として來襲した男)部下の十七名外局子街駐屯兵の一部を合せた六十餘名は去る十八日正午殲滅きながら馬賊を追擊すると稱して管内三道溝を通過奧地に向つた(間島)

初火事

四日午前零時二十分頃府内黃金町一ノ一四五賀屋商會方から出火したが同家の家財を燒失したのみで延燒を免れ同四十分消し止めた損害約二千圓原因は火鉢から▲同日午前八時半頃孝洞二四金相根方から出火しやうとしたが大事に至らず消し止めた

[illegible]

去る二日午後一時頃府内旭町の某内地人方に及南米町二丁目の内地人宅に押入つて衣類十數點を竊取してみた事を自白したが餘罪ある見込みで引續き取調べ中

呪はれたる宿命に泣く、
白鸚鵡夫人
○酒井米子 高木永二 三桝豐 徳川良子 全六卷上映 解說 櫻田耕作
餘興として 『日活特派』 橘正風出演 臺覽を賜ひし 一八百藝
大劍客豪傑漫遊記 白藤權八郎 前週に引續き後篇六卷 絕對的好評を博したる 解說 妹尾半狂
米國パテー社提供 荒原の秘密 第五回目 解說 下田朔風
連日連夜の滿員を賜り御禮申候
直營 喜樂館

五日封切晝夜二回
新春第二回 キネマ大殿堂に 光彩燦然と輝く ◎日活双壁映畫!!! ◎紅情大悲曲

六千圓 當一番組 廿一圓
いよ〳〵(一月一日くじ)
復興貯蓄債券番號同一組賣
九千圓 當二番組 卅二圓
一萬二千圓 當三番組 四拾四圓
一萬五千圓 當四番組 五拾七圓
一萬八千圓 當五番組 七拾圓
◎京城府内普通株式會社拾銀證料一口... 右ノ内二通組ヨリ六通組...
■同時御買入ハ六通...
福岡市博多下具服町...
日本勸業株式會社證券 福岡支店
振替福岡九五五〇 電話一五四五番 (本店 日本勸業銀行構內)
月報社改メ

賀正 大阪(梅田)旅館 紅葉館

東亞牧場 太正區肥塚町 電話二五五番
宮內省御用 全乳 鐵道病院御用 搾取

迎春第二回 愈々正月五日より 特提大興行
松竹下加茂最新大傑作 野村芳亭氏入活 第二回監督大映畫 柳咲子 主演 賀川延松 志賀靖郎 助演
琵琶劇 佐々木旭瑞嬢彈奏 時代映畫 全六卷
戀の謙信
松竹蒲田最新作 新井淳、野寺正一 梅村蓉子、東榮子 主演
松竹蒲田獨得大作品 堀川浪之助
大喜活劇 全六卷
惡太郎
ファーストナショナル映畫 人情大活劇 全七卷
魂の歸り行く ミルトンシルス氏 アイリーンリツチ嬢 主演
特別番外の大興 賜御臺聽の光榮 一人百藝の妙技
大正館

津の國屋小染

【五十六】 小金井蘆洲

兩手を突いた津の國屋惣兵衛が擧『エ、此度は結構なお土産を頂戴仕りまして恐れ入りましてございます、お尋ねの津の國屋惣兵衛は手前でございます、御用の趣き何等の次第にござりませうか、一體お仰せ聞けられますやうに願ひ度う存じまする』威儀を正して、されば何事かと鹿爪らしく

元總督府醫院囑託 宮田齒科醫院 京城本町五丁目電話二〇三八番

云ふかと思ひきや膝を乗り進めて 大『大膳旦那年をお老りになりましたな 惣、エ、ツ、何と仰せられます 大『唯今から丁度十三年前、天保三年の秋のこと、お宅へ下谷坂本二丁目の紙屑買ひ紫兵衛と云ふ者の倅で紫三と云ふ者が御奉公に上りました、此年を越した如月の中旬、使ひ先から戻つて來てお宅へ泥棒が這入り來ることを未然にお

知らせ申した、それが爲めにまアく其儘無事に済みました、けれどもお知らせ申した紫三と云ふ者は、人の泥棒なることが知るのは自分に泥棒の了簡があるのだらう、恐るべきものだ、

寫眞は 旭町一河原へ

熊坂長範、石川五右衛門にもなり兼ねまじき奴だ、今の内に暇をやつて、しまつた方が宜からうと云ふことで、遂々お宅をお拂ひ箱の樂天國、親父の紫兵衛に引取られて坂本の家に歸ると、これは油津の紙屑一家の者より勘當不屆、然う云ふ奴は行末恐ろしの首に繩を付ける奴だと云ふので、遂に七生までの勘當と云ふこと、寄るべ渚の捨て小舟、この世から孤兒となりました、けれども種々と苦心をした時に伯手を求めて上野のお山に勤め、恥なし、辱なくも輪王寺宮一品親王のお目出しに預かつて、唯今では宮家のお側御用役、其名も改めて杉田大藏、御用人紫三と云ふ熊坂小僧でござる、久々振りにてお目に掛り申した 惣、エ、ツ、

俺は那の時の紫三殿でございましたか、ア、大層お立派に御出世になりまして、誠以て恐れ入りましてございます、何とも御挨拶の申し上げやうもございません、おなか此處へお出で、十四年前に家に奉公して居て呉れた紫三さんと云ふ小僧さん、ホラあの泥棒の這入るのを教へて呉れたお方が、今ぢやア斯んなに立派に御出世をなすつてお尋ね下すつた、上野の宮様のお側御用人様だとよ、何とまア人の行末は判らないものぢやアありませんか 大『只今あれにて承はつて居りましたが、偉い御出世をなさいましたね 惣、イヤもう手前共にお出でる時分にも、何となく外の子供とは違つて、お若い處がございました、だから私は決して那の折も暇を出したくはなかつたのでございますが、何を云ふにも大勢の奉公人、遁なく暇を出し

言ひ抜けのやうではありますが、大『イヤ／＼、それは手前共も能く存じて居ります、ですから、今日伺つたやうな次第…… 惣、何はしかれ、今日は御悠くりお寛ぎ下されまし』と云ふので、紫三の内にて相濟みませぬ、斯う申上げると酒肴を出して饗應をするといふ譯だ、久々振りにてお目に掛つた等、これから那れと話を致つてお話しをしやうと存じて居りましたが、俺お目に掛ると嬉しさ久々に追つて申上げることも聊や先き

京城明治町二丁目 中央婦人科院 院主 衣笠茂 電話三三四〇番

就てはお宅に御奉公を願つて居た時分に出世の途願をして居た紫助の紫兵衛さん、久和手前が見世へ這入つた時に帳場の中に居られたのが、確かにそれのやうに存じましたが、それとも違つて居ますかな 惣、ヘエ、あれが紫兵衛でございます 大『ウムーン、私も久し振でお目に掛りたい 惣 本人も左様申して居りますが、面目ないので出るに出られすと申して居ります 大『殿の面目ないことがあるものではない、どうぞ此方へ一つお時なすつて 惣、次の間に控へて居ります、紫三兵衛どんや／＼ 紫『唯今』 紫三はつて居りましてございます それに出て御挨拶を申上げます』

戰く魂

中國 晉一

死と
生の
交響樂
我、……
誘ひ
逝くとも
悔ひづ

○

世を罵る
血、
惡魔に燃え
五色の惡魔の
流れ、
聞なく沾ほふ

○

讒誣
甘く
身を縛り
靈魂
盗し……

○

希望は
変戰へ
虹の如く
我、
逝く……
今日の
生活に
醱酵たり

○

暗鬼哭けば
魂は
戰く
生活の
底、
悪心
死滅へ沈み
泥、
潜々

○

我等の行手に
猜疑、
呪咀、
炎々とし燃ゆ
見る所れ
罪惡、
云はん

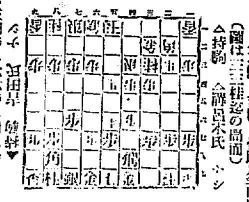
將棋新手（十一）

於釜山松島朝鮮館對局 南鮮將棋大會席上

飛落 △七段 溝呂木光治（東京）
▲二段 吉田 伊助（釜山）

（圖は三手目迄の局面）

△持駒 △溝呂木氏 ナシ



△三四歩▲七六歩△四四歩▲四八銀△三二金▲四六歩△四二銀▲四七銀△四三銀▲五六銀△五四歩▲四八飛△三三桂▲六八玉（イ）△六二玉（ロ）▲七八玉△七二玉▲三六歩△九四歩▲九六歩（以下次號）

溝呂木七段講評

▲（イ）六八玉は惡し此處三六歩と突くが定跡なり

△（ロ）六二玉は普通三五歩と位を採りて指す處なるが吉田氏は力指を得意とする故わざと位を採らずに玉を採りたるなり

謹賀新年

清酒東洋一醸造元 大阪府堺市 柴谷合名會社

◇新春第二回特別大映畫週間◇

兄弟と城

―牧野省三自身監督―東亞マキノ大特作品

◇明石潮、山本日出子、泉春子、小島陽三、共演◇

全七巻 鐵蹄千里

馬匹五百頭と六百の人員を要せし大猛闘大冒険活劇

中根龍太郎 主演 大喜劇 橋から橋 全五巻

澤正と國定忠次 ―發聲篇 御挨拶 一巻

【五日より九日まで】 中央館

演藝案内

黄金館 毎日晝夜 松竹共營 謹賀新年特別大興行 元日より五日間公開 ▲笑ふかどには福來る 大當り 二篇 ◎ニコ／＼大滑稽 次 喜多 六巻 ◎大活劇 片岡仁三郎主演 一戰 全六巻 ◎大活劇 憤起一戰 全六巻 ◎ドリス・ケニオン主演 ◎情火渦卷く 全六巻

喜樂館 京城本町一 常設活動寫眞 ◎五日より新春第二回特別大興行 ◎連續活劇 ◎白藤權八郎 後編 六巻 ◎延一郎、鬼六、一色緑子主演 ◎大武劍 白鵜夫人 全七巻 ◎三柳 酒井米子主演

大正館 松竹共營 毎日晝夜 ◎當る正月五日より ◎實寫「ヴェロナとヴェニス」長尺

中央館 東亞キネマ マキノキネマ 五日より第二回新春特別大映畫 ◎ニコ／＼ちやんの獅子狩 全二巻 ◎喜劇 ビラ人足 全二巻 ◎現代喜劇 橋から橋 ◎現代劇 鐵蹄千里 全七巻 ◎澤正と國定忠次 全二巻 ◎時代劇 兄弟と城主 全六巻

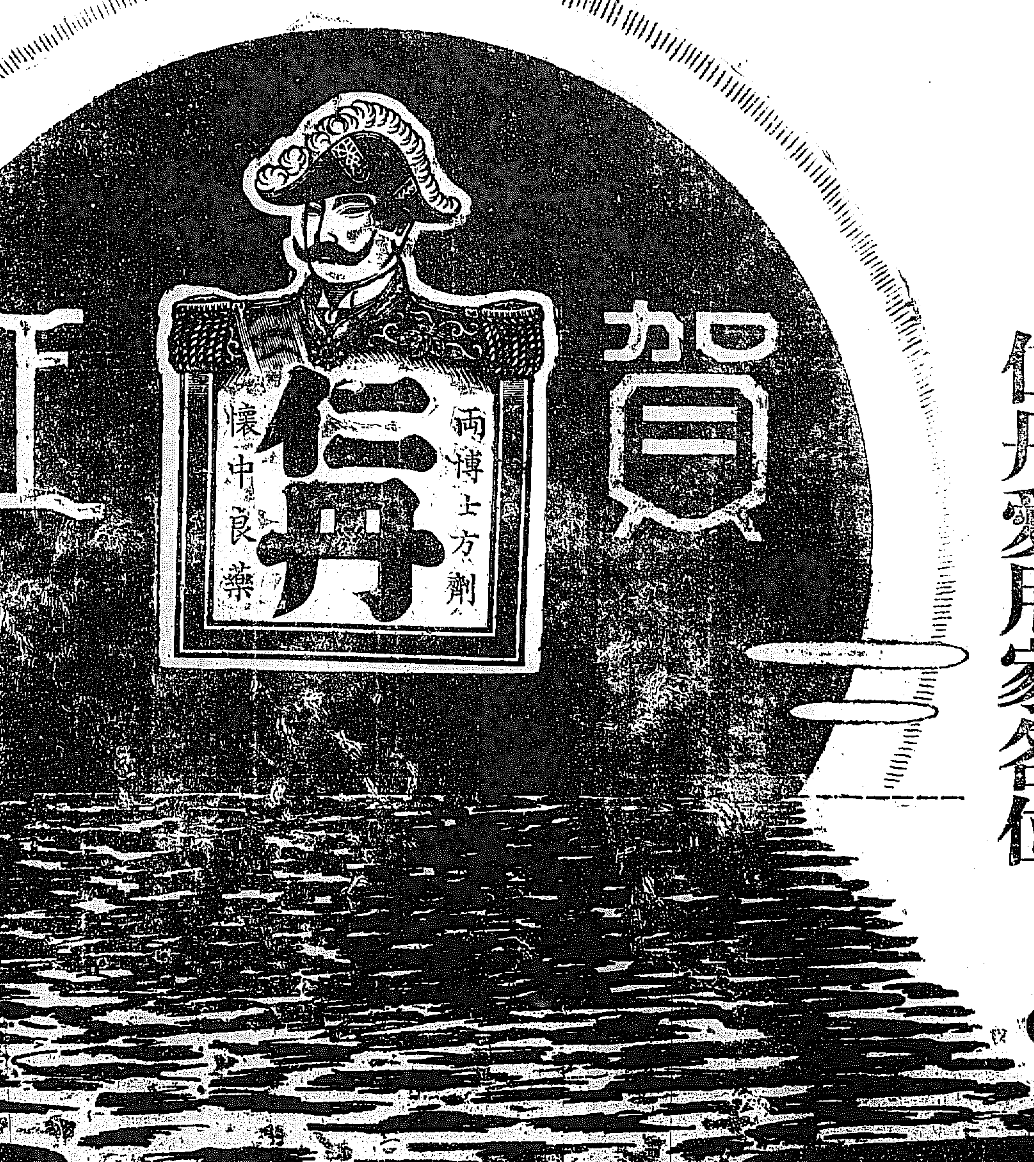
浪花館 明治町 電話二六〇 青葉會 安來節、落語萬歳 出雲富士 外色々 外三十餘名の大一座

最新刊

長與善郎 エピクロスの快樂 一、八九
米田正利譯 聖フランチェスコ 二、一〇
大阪毎日編 日本音樂の聽き方 一、八九
中谷芳雄譯 パステル畫實驗 一、八九
田中香涯著 現代社會の種々相 二、三一
日本文學會 新文章及文學講義 四、〇九
新宮恒次郎 早教育理論と實際 二、六二
小林一郎著 法華經と日蓮上人 二、九四
岡本清徳著 新しい當方學習法 二、八二
吉野作造編 島田三郎全集 四、三〇
栃尾泉著 船用蓄電池に就て 二、一〇
木村増太郎 支那の經濟と財政 二、九四

筆生 二友社

京城 大阪屋號 振替京城二五七三番 電話本局二〇八六番



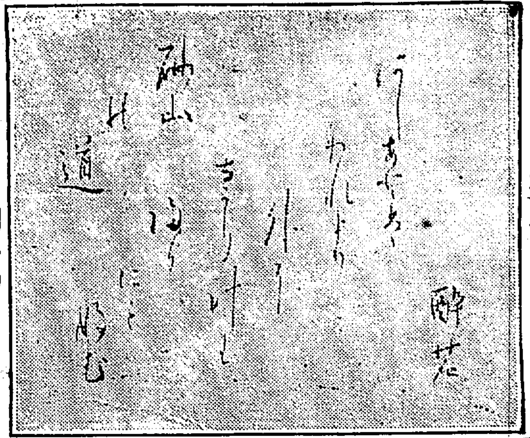
謹で新春を迎へ仁丹愛用家各位の

御健康と御幸福とを偏に奉祈候

大正十四年 正月元旦

金言 時間に優れる価値なし（西諺）

河井酔茗氏筆



創作界の現狀（下）

小島德彌

武羅夫 は、矢張り専ら長篇に努力を致して、文壇の大方より期待されてゐるところの短篇は『職進』に『或る職り者の死』といふのを書いたゞけである。そして、その出來榮は、可もなく不可もなしといふ程度であつたが、これを機縁に短篇の方にも筆を染めて貰ひたい。

龜之助 は、出版事業に忙殺されてゐるためか、最近『潮風の好意』他に二三の戯曲を書いたばかりである。『潮風の好意』はユーモラスなもので、龜之助の長所を相當によく出してゐるやうに思はれる。

精二 は、早稲田派の新進として、また、人道主義の色彩の多い作家として、廣津和郎と併稱されることもあつたが、今はこの二人は全然別個の方面に向つてゐる。精二は、最近、『美男』『嫁母』『從妹』『ありふれた話』などの短篇と『歡樂の門』といふ長篇を書いたが彼の擡頭當時に於ける溌剌たる元氣は、その作品を通じて見ることが出來ない。

精彩に乏しいと云へば、吉田絃二郎、相馬泰三、秋庭俊彦などの作家は、甚だ振はない。また、兩細田と云はれる民樹と源吾も、長篇小説に多くの努力を致して、好ましき短篇を殆ど書かない。

左傾作家と稱せられる中で、見るべきは、藤森成吉、江口渙、宮地嘉六、宮島資夫、加藤一夫、中西伊之助、前田河廣一郎、などであるが、何れも最近あまり振はず、就中、一夫、渙、伊之助の如きは殆ど作品を見せない。

成吉 は、裸一貫で筋肉勞働者の群に投ずる前に『逃れた人々』『お國の手紙』『敵』などを書いたが、何れも作者の囚はれた氣持が作品を打壊してゐるやうに思はれる。嘉六は『隣りの奥さん』『花子の訪れ』『未解決のまゝに生きる』などを公にしたが、何れもあまり力作が入つてゐない。

就中二者に較べると、資夫は、『混沌』『噺』『二つの事件』などを書いてゐるが、昔ながらの才能の儘に衰へざるものがあるのは心頼もしく思はれる。廣一郎には以前ほどの活氣はないが『大』その他の短篇に長篇『快樂師の群』『大暴風雨時代』などを書いて衰へを見せざるこの派のために萬丈の氣を吐いてゐる。

六

私共はすでに後備作家及び中堅作家を一通り俯瞰したが、こゝに現役作家を一通り見直つてみなければならぬ。

現役兵は、未だ教練中の兵士である。この意味で、未だ訓練中にある作家をこの中に並べてみる。即ち、世に所謂新進作家や中堅作家の後塵に乘じて、この新進作家の活躍が目ざましい。

瀧井孝作 は、新進作家と呼ぶのは氣の毒に思はれるほど出來上つた作家であるが『澄む』『異母』『妻の親』『彈力ある氣持』などの近作を見るに、一種云ふべからざる緊密な文章で[illegible]をつけてゐるが、プロツトの摑み方などは仲々功者なもので、殊に『彈力ある氣持』は文壇近頃の佳作である。

犬飼健 の『南國』は、純眞な氣持で丹念に書かれてゐるところがよい。

岡田三郎 は二十行小説を提唱した故でもあるまいが、最近長篇の『巴里』の他に、極く短い短篇以外に公にしない。しかしその數は『蘇口の話』『五人の女の素描』『乞食の子』『戀と逆立』『或る女の出納簿』など相當に多い。中で『或る女の出納簿』の新形式にだいぶ問題が起つたが、この形式が新しいものであるにせよまたないにせよ、作者としてこの題材を取扱ふにかういふ形式を採らなければならないのなら一向差支へないことである。

牧野信一 は批判の才人であるだけに、その奔放な筆致の中にも、摑むべきものをちやんと摑んでゐる。『爨海へ』『スプリングコート』『父を賣る子』などはその心理描寫に作者の風格を示してゐる。

戸川貞雄 は最近、可なり多くの作品を公にしてゐるが、『私語』といふ大正增の生活記録を描いたものより他に佳作はない。『露路』は作者の懸命なる努力は見えるが、構想があまりに古すぎる。『アミゼラブル レター』や『多忙く』になると、貞雄の醜態を下すばかりの愚作である。

下村千秋 は『私語』『飛脚』の如き力作を相次いで公にして健闘これ努めてゐるが、その題材の地味な點であるか、表現に新味がないためか、あまり文壇の問題にならない。

四方八方よりの非難攻撃を雨と浴びて、最も華やかな活躍振りを示してゐるのは **横光利一** である。『幸と指輪』『赤い色』『無禮な街』『頭ならびに腹』などの作品は、毀譽に拘らず文壇の注意を惹いてゐる。

中河與一 は『木枯しの日』『じゆんさいふ』『發足』『ビスケットと裁判』『興奮せられた野菜』などを公にして、或は近代人的感覺の鋭さを見せ、或はユーモラスな味を持つ人間的感情を示して居る。多少病弱なところがないでもないが、常に好ましい印象を受ける。

伊藤貴麿 は『入獄者發狂』『或藝術家』『春の頭』などの作品を公にしたが、個性が[illegible]つて、聊か技巧の末に走つたといふ觀がある。

七

新進作家の中でその意氣込みの最も熾なる人は **川端康成** である。彼は、意氣が熾であるばかりでなく、仲々の努力家である。田山花袋もその努力を認め、有望なる新進作家に彼を擧げてゐる。事實『篝火』にしても、『空に動く火』にしても、一通りでない骨折りが見える。作品の好惡は別としてその骨折りを買はねばならないやうな氣がする。

今東光 は、才氣煥發といつたところのある人である。『脈打たぬ船』『眉を描く』『犬』『鬼火』『軍艦』などの作品は、作家としての彼のその特色を遺憾なく發揮してゐる。

十一谷義三郎 があまりに大事を踏みすぎてゐるのに對して、石濱金作はあまりにイカモノを作りすぎる。何れも私共の取らざるところである。

佐々木味津三 には、すでに一種の風格が出來てゐる『金一封』『志士』『德人』『二人の異端者』『偉なる復讐』などは、出來不出來に拘らずその風格が出てゐる。その中で、『志士』は最も好ましきものであり、『偉なる復讐』は最も好ましからざるものである。『二人の異端者』には味津三流の一氣呵成の趣はあるが、伸縮自在とでも云ひたい暢達した筆致だけには敬服される。風格と云へば

佐々木茂索 には、ちやんとした風格が具つてゐる。『新しき』『王城の從兄』『曉日』等は茂索の地の味を出してゐるもので、彼の『人間』がよく出てゐる。氣取つたり、横文字を挿んでハイカラ振つたりするのは、彼の識趣で氣にもならないが才氣をあまりに見せびらかすのは厭味である。馬鹿味で『おしやべり』の如き、面白くない。

加宮貴一 は、三田派には珍らしく地味な作家である。『凶日』『フランダスの同情』『メリゴラウンド』などは、作者の質朴な筆致で聡い印象を與へないが、もうすこしひきしめる必要があるやうな氣がする。

片岡鐵兵 は曾て『舌』といふ佳作を公にして認められた作家であるが『卑怯』『嘲笑』『春話』『幽靈船』といつた氣の利いた作品を多く發表してゐる。『冬』『焦土』『宣傳』『人生の目的』などを公にした諏訪三郎、『痴情』『骨肉』『放浪者と夜』などを公にした尾崎士郎、それから最近あまり書かないが新井紀一の三者は何處か相似たところがある。器用でないが素直に、丹念に書いてゐる。

今の賢三 と國木田虎雄とはその素朴な筆致と新鮮な情感を以て文壇に好評を得てゐる。前者の『若さ』『彼方へ』後者の『嫞[illegible]』などは、何れも好ましき印象を得させるものである。

悦田喜和雄 は武者小路實篤の推薦で、『新しき日』の一篇を以て文壇に出た作家であるが『叔母』其他の最近公にした作品には云ふほど大したものもない。たゞ作者の生眞面目な情感と透徹した理性だけは充分に見られる。

以上の新進作家の他に、富ノ澤麟太郎、松永延造、和田傳、柴山武雄、北小路功光其他の作家があつて所謂、新興文壇の氣勢は澎湃として既成作家の壁壘に押迫らんとする慨があるが、果して將來の文壇、わけて創作界は如何になるか、さういふ意味で大正十四年度の文壇は必ずや平凡でなからう（完）

戀の珠玉（三）

田山花袋

晩飯も篭で下のレストランに行つて二人並んで食ひ、ホテルのマチイジヤアや番頭などにも平氣で話し、あたり前の事でもするやうにして、B達は二人乘りの馬車に乘つて出掛けた。

それでも總子はその前に宅へ電話をかけて來た『叔母さん心配はしてゐたけども……何アに、構ひやしないのよ。好い叔母ですからね。本當の叔母だつてあんなには行きませんからね。あの叔母がわかつてゐるから、私、かうしてゐるのよ。でなきやこんなところに落付いてゐるもんですか』並んで馬車に乘りながら總子は言つた。

ほんの今日だけのことであるけれども、それでも夫婦にでもなつたやうな氣持を總子もBも感じた。

『かうして馬車に乘つて、ハルビンの町をゆかうとは思はなかつたのねえ？去年の今時分にも、こんな時が來るとは思はなかつた！』

かう總子は喜ばしさうにBの耳に囁いた。

『エスキヤ？エスキヤ？』まで

ロシア人の馭者は振返つてB達に言つた。

『川まで……』

總子も合せた。

これでロシア人と支那人とが混じつて歩いてさへゐなかつたら、B達はこゝを日本の大通りかと思つたかも知れないほどそれほどあたりの建物はよく似てゐた。漸く咲始めた六月のアカシアの花がをりをり強いかをりを馭者の方に漂はせた。

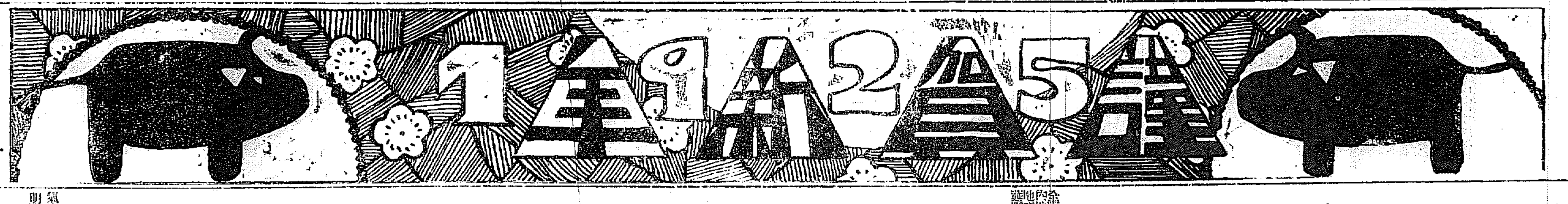
途中で總子はかねて知つてゐるらしい日本人に三人ほど逢つて挨拶した。一番最後に逢つたのは、背廣を着た、若いハイカラな會社員らしい男であつたが少しこつちに來てから、『あの人、滿鐵に出てゐるんですけどもね。宅の抱へのお小春といふのに惚れて居るんですの。お蔭でお客にはしてゐるけれども心配もしてゐるんですの……』

『いくらか惚れてゐる相手の女ですか。』

『まだ若いんですからね。何と言つたつて、私なども驚きがありますけども、二十や二十一では本當のことはわかりませんからね。一度や二度は男を捨てたり男に捨てられたりしなければ本當のことはわかりませんからね……』こんなことを總子は言つたが、しかも二人して馬車で走つてゐるのを見られても、少しも困つたり、あはてたりしたやうな態度をこの女は前にあらはさなかつた。

町はやがて盡きて、その向ふには、次第に大きな川の流れてゐるらしい廣い地平線を眼の前にするやうになつて行つた。

『六』頁へ續く



全南忠州 一色益義 電三一六番

忠州西門町（電話一四一番） [illegible] 院主 岡錫吉

忠州北門 東雲旅館 通電話一九番

忠州仲町 中川寫眞館 電話四三〇番 本館 木浦府安通 電話六二番 振替八二二二番

忠州面長 秋場格太郎 電話一七番

全南榮山浦 朝鮮繩叺株式會社 電話二四・一一番 振替口座二七四七 電略「テナ」 全南全北內地各地 繩叺商 運送業務

全南榮山浦 道評議員 黑住猪太郎

榮山浦 森崎胖一

全南榮山浦 榮山浦産米改良組合 電話五七番

全南忠州 原田謙造 電話一五八番

大興電燈株式會社 光州支店 電話一一番

光州郡守 牛島熊記

全南忠州 安東進 電話二五三番

池上齒科醫院 忠州仲町（電話三五九） 池上齒科漂陽分院

氣壓用自轉消火器 明石社朝鮮代理店 全南光州花 田中俊助 本町電話一二番

清州本町四丁目 清州旅館

清州相生町 道評議員 川島由三郎

清州旭町通 鳥居齒科醫院

清州面長 申昌休

清州西町 旅館 生保軒 電話一五〇番

清州本町五丁目 金子呉服店

同本町四丁目 小方呉服店

同本町一丁目 小木曾呉服店

清州本町五丁目 藤田雜貨店

清州本町三丁目 清州藥局 小田嗣一

清州本町 小木曾商店

清州本町三丁目 和洋雜貨 伊藤商會

清州本町四丁目 江上小三郎

殖産銀行支店長 平原保

清州榮町 辯護士 岩切清治

清州學校組合評議員 本田增次

清州學校組合管理者 北原彦次郎

清州本町二丁目 ゴム靴商 古谷商店

光州本町 光州無盡株式會社 電話三六四番

清酒菊日光醸造元 光州酒造株式會社 全南光州

全羅南道
知事 張憲植
參與官
内務部長 松井房次郎
警察部長 土師盛貞
財務部長 澤慶次郎

光州土木請負組合
竹内直太郎 由田策 上田卯作 大江重春 森安孫六 [illegible]角藏 坪井盛太

光州面協議員（以下順）
松井理三郎 谷口隆 坪井盛太 藤本一二郎 島村民衛 諸山猪藏

光州學校組合管理者 松田德次郎

時間迅速親切丁寧ニ取扱申候 原田自動車部 營業主任 原田鶴太郎 （電話三〇番）
光州花園町 原田自動車部松汀里派出所 （電話六番）

光州中學校長 光州師範學校長 光州女學校長 光州農學校長 光州高等普通學校長
佐藤正作 大谷源助 三好貫二 中川千吉

全羅南道榮山浦 土木建築請負業 板谷土務所 板谷一敘 電話一三一番

朝鮮殖産銀行 晉州支店

南鮮棉花購買組合 全南木浦寶町

天安面長 柴崎定介 外職員一同

天安公立普通學校長 松崎甚助 外職員一同

天安公醫 合馬久博

土木建築 農具類 河村金物店 同 鐵工部

天安檢米檢査所 主任 小泉德壽

城南電燈株式會社
社長 朴弼秉
專務 本田貫巳太郎
常務 朴容寅
取締役 朴承烈 朴鍾九
監査役 高錫圭 尹錫祐 朴承春 李周榮 尹歡熙

禮山郡廳 廳員一同

禮山牧場 場主 井上敬二 場長 世良哲

運送業 禮山驛前 村上良左衛門

成歡 千綿峰吉

平壤警察署長 佐伯多助

太田春日町 林醫院 電話三六四番（入院の設備完全）

京畿道安城 安城旅館

晉州金融組合

晉陽金融組合

貸金倉庫業 安城商事株式會社

牧童　三戸萬象氏筆

講談

出世の谷風

神田伯山

六

茶碗は汚い手の掌へ入れたのを又お前の中へ返しをされては困ると思つて見て居りますると、與四郎の方でも些と餘計に取過ぎたと思ふから、考へてみたが與『是はどうも飛んだことをしました、けれどもモウ私の手の掌へ取つたものだから、此のお前の中へ返してもよくありますめえから、是は私が皆頂戴してしまひますよ』亭『アヽそうしてお呉れ食られるものなら皆食てしまつてお呉れ』與『へエ食ますどうも御馳走樣で』と云ひながら、手の上の小梅を口を開いて一度に、パクンと投り込んでパタ／＼パタ／＼噛んで居る亭主も驚いて、恐ろしい齒の力だと思つて見て居たが亭『ねエお前さん失禮だがお前さん何になるんです』與『へエ私力士にならうと思つて、態々國から出て參りました』亭『アヽさうですか、私は又お前さんが、湯屋の三助になるとか或所の飯炊にでもなると言つたら世話取をして力士にしやうと思つたが自分から力士にならうと云ふ氣があるなら、誠に結構だ、力士におなんなさい、お前さんが力士になれば大したものになるだらうそれで親方さんはモウ決まつたのかい』與『サア親方がまだ決まらねえから、御贔屓にお願ひ申て、成だけ宜い親方を一人授けて貰はうと思つて出た所でございます』亭『然うかい、それぢやア一つ私の云ふ事を聞いて、本所回向院前の浦風林右衛門と云ふ今東の大關を取つて居る、其人の所へ行つて呉れないか、時に私は浦風さんと深い懇意でも何でもないけれどもマア宜い力士だから、先方の知らない贔屓をして居る、第一お前位の身體の者は、浦風さんでなければ稽古は附けられない、どうだね行つて見る氣はないかい』與『へエ其浦風つて奴は何ですかい』亭『自分の師匠さんにもしようといふ人を、奴といふのは亂暴だねえ』與『どうも濟ません、其浦風さんは大關ですかい』亭『アヽ恰度此ソレ此方の端に大きく書いてある番附がある此番附を見ると分るだらう』與『成程、おやア此人の所へ行きませう』亭『アヽさうかい、ちやア然うしてお呉れ、夫れからね贔屓さんが若し、お前は誰の指圖で、俺の所へ來たと聞いたら、淺草奧山の立花屋と云ふ茶店の亭主に聞いて來たと云つてお呉れさうすれば又贔屓さんがお前を世話して、此方へ來た時に立花屋を訪ねて來て呉れるだらう、さうしてお客さんに贔屓から勸めてお呉んなさりやア餘計なお茶代も下さるといふもの、人可愛いは身可愛の譬へのある通り、私は贔屓浦風さんに馬鹿に贔屓にして居るんだから同じ事なら、贔屓力士の處へ弟子を紹介たいから』與『へエ夫ぢやア是から行くとします』亭『お前さんは宿はないのかい』與『今國から出て來たばかりで、宿などはありません、村の人が路銀を拵へて遣ると云つたのを、路銀を貰つたばかりに、出世をしても頭の上らないやうな事があつては詰りませんからそれも斷つて了ふて、道中人足になつて、他の荷物を擔ぎながらやつて參りました』亭『それは兼々感心なものだ、時にお前さん回向院へ行く道が分らなからう』與『へエ』亭『それぢやア吾妻橋を知つてるね』與『吾妻橋つて何處で』亭『それぢやア雷門』與『雷門つて何處で』亭『お前さん、一體何處から入つて來たんだい』與『アノ向ふの大きな門から入つて來ました』亭『彼がお前雷門といふ門だ』與『アアさうですか』亭『アノ門を出て、左の方へ眞つすぐに行くと吾妻橋だ、其橋を渡つて左の方へ行つてはいけない、左へ行くと向島と云ふ所で、今花時だから其方へ多く人が行くが、お前さんは其方へ行つてはいけない、右の方へ曲つて、川縁に附いて行くと、御廐橋と云ふ稍小さい橋がある。其橋を渡ると向ふに大きいお寺の屋根が見える。それが回向院と云ふお寺だ、其回向院の前の、門の入口に井戸があつたと思ふ、其家だ、門構へで』與『私が能い力士になつたら、お禮により其時お禮代を澤山授きます』亭『ナニ禮代なぞは要らないが、早く立派な關取になつてお呉んなさい、一生懸命稽古をして一日も早く出世をしなければ不可ない幸福おしよ』與『有難う存じます』

七

與四郎は立花家を立出で、彼見世を通つて雷門をくゞり、吾妻橋を渡りますと、成程向島は花時なので、大勢人が出て居ります、其方へ行つてはいけないといはれて居るから、右の方へ曲がつて參りますと御廐橋、只今の御廐橋は立派になつて居りますが、其當時は恰度龜戸の天神樣の太鼓橋見たやうになつて居りました、其高い橋の上へ丈けの高い與四郎が、突つ立つたのだから遠くから見える、所が下から駕籠が五六人、四手駕を一本丸太を通してヨイショ／＼ヨイショ／＼とかついでくる高い橋の上へ立つてる與四郎を見たから馬鹿に大きく見えた〇『どうだい、大きな野郎だな』△『大きい奴だな』是を聞いて與四郎下を見下し與『ヤアわけえ奴がきやがつた』〇『何をいやがるんだ、わけえ奴てえ奴があるかい、化物見た樣な奴だ、ヨイショッ／＼ヨイショ／＼』と橋を渡つて行く　與『アー櫻の花の咲いて居る方へ行く所をみると、酒をかついで花見に行くとみえる、俺も早く關取をかついで花見にゆくやうな關取になりたいものだ』と呟くその後を見送つて居りますと力士『ヤイ／＼橋のまん中に立つて居る奴があるか、はやく往來せんかい』與『へエ御免下さいまし、ツヒ見惚れて居たものがあつたものだから、どうぞ御免下さいまし』力『一寸待ちなせえ』與『ハイ』力『其方さんは、好い身體だのう、遠だ失禮だが一つ力士になつて見る氣はないかな』與『有難う存じますが、モウ私力士になりましたです』力『オウ力士になつたか、誰が弟子にしたか知らんが、好い體が出來た、羨やましいこつたが、誰の弟子になんなすつた』與『ハイ、浦風林右衛門と云ふ奴』力『ナニ、浦風林右衛門と云ふ奴、ハテ聞いたやうな名前だが……アハヽヽ、其浦風林右衛門は俺だ、俺が浦風林右衛門だ』與『ア、さうですかい、是アえらい失禮をしました、私お關取の弟子になりましたもので』林『何だ此の野郎今奴だと云ひやがて、直にお關取と言ひやアがつた、それは宜いが俺は汝などを弟子にした覺えはねえ』與『イヤ、奧山の立花屋の立花家といふ茶店の亭主さんが行つて弟子になれと、教へて下されたから、是から行つて弟子になる者でがす』林『ア、そうか、夫アマア親切な人だ其立花家と云ふ茶店の亭主さん、何は兎もあれ櫻の下では話しが出來ぬ、むかふの茶店へ行つて話を聞くとしよう……コレ婆さんや』婆『オヤ／＼是は關取さん、今日はお花見でございますか』林『オウ仲間の花見で、見たくもないが交際で出掛けねばならぬ、サア若いの是へ掛けなせえ』與『有難う存じます』婆『さア若い衆さん、お茶をお飲みなさい』與『有難う存じます』與四郎茶碗を取つて一口飲んだが、ブツとはき出した林『コレ何でそんな事をするのだ』與『關取さん、今立花家で御馳走になつて來たお茶は、馬鹿に甘かつたが、此の茶店の茶は、澁くて不味うございます』林『さうさ、江戸と云ふ所は一から十まである所だ、時にお前は何處の者だ』與『ハイ、仙臺領宮城郡荒井市村、霞の目と云ふ所の百姓與四郎といふ者でございます』林『ウム然うかそれでは仙臺の城下から近いな、父さんや母さんは達者かね』與『親父は小さい時に死にまして、母親丈け達者で居ります』林『宿は何處だ』與『宿はまだ何處ともきまりません、今出て來たばかりで』林『宿への進物はないのかい』與『へエ、是つきりでございます』林『夫では途中で道樂でもして、金を使つて了つたのか』與『ナニ道樂などはしません國を出る時から此の中に一文なしでございます、村の人等が寄つて餞別を呉れると言ひますから斷つて了ひました』林『アヽ然うか、扨々面白い男だ、ときに汝幾歳だ』與『十八でがす』林『然うか宜し／＼一つ面倒見てやらう』與『どうぞお頼み申ます、何分お願ひ申ます』林『今俺は花見に行く處で連れて行く譯にもいかぬ、俺の家はアノ一寸立つて見ろ、ソレ彼處に大かい屋根が見えるだらう、アノ大かい屋根の前に、井戸のある家が俺の處だ、其處へ行つて俺の歸りを待つて居るが宜い、だが其姿で行くな、兄弟子になる奴が澤山居るに依つて、汝が出世をした時に肩身が狹い、それ汝に此の金を遣るから、向ふに見える兩國……アノ橋を渡ると、賑やかな處がある、其處へ行くと古手屋がヅーッと列んで居る、分つたか、其古手屋で汝の身體に合ひさうな古着を買ふて、湯にでも入り髮を洗ひ、髭か何かで一寸束ね然うして家へ行つて待つて居ろ』與『有難う存じます、御宅は皆、部屋の若い衆さんばかりですか』林『ナニ嬶が居る』與『それでは一寸手紙か何か書いて戴きたいもので』林『然うか、それも宜いだらう、婆さん濟まんがね、硯箱を貸て呉れ、紙は俺が持つてゐる……コレ名前は何と云ふのだ』與『ハイ與四郎と申します』林『力士はな字が拙いから笑ふなよ……ソレ出來た、此の手紙を持つて行け、讀んで見ろ讀めないか、是は與四郎と云ふ者だ、今俺が弟子にした家へ置け……アハヽヽヽ』與『此處に書いてあるのは何だね』林『それは俺の名だ』與『有難う存じます、關取さん、此の紙の空いてる所へもう少し書いておくんなさい』林『何だ』與『飯を直に澤山食はしてやれと書いてお呉んなさい』林『アハヽヽ宜し／＼まんまうんとくわしてやれ……之れで宜いか』與『有難う存じます、それぢや先へ行つて待つてますよ』（つゞく）

水牛　大阪天王寺動物園の人氣者

戀の珠玉

（五頁より續く）

石ころの多い小さな坂を登つたと思ふと、新しい天地でも開けたやうに、忽ち大きな鐵橋を踏ませた大河が銀を浮べ日を熔して滔々としてゐるのをBは眼にした。馬車はやがてその土手の上に留まつた。

『これが松花江だね？』

『さう……』

『大きいね？』

逸早く女がおりるをBは眼にして

『こゝでおりるのかい？』

『え……こゝでおりて、川を渡らなくては』

『川を渡るのかネ？この川を？』

Bはいくらか驚いたやうにしていつた。

『だつて、エスキヤは、向ふですもの……川を渡らなくつちや……』

彼女はかういつたが、續いておりてくるBを土手の向ふへ――ボウトやベカの澤山に集まつてゐる方へつれて行きながら『そら、向ふに見へるでせう？ロシア人の住んでゐる家が』

『あゝ……』

『あれがエスキヤですの、』

『大變だね』

『何アに、わけはありやしません。だつてボウトですぐ行けるんですもの……。今でこそまだやつと著になつたばかりなので、川はこんなにさびしいですけど、これから夏になると、それは賑やかですよ。ロシア人はみんな川に出て來ますからね……。そらあそこに若い二人連れがベカを漕いでゐるでせう？あゝいふのが澤山に出て來るんですから――』

いつか彼女はボウトの澤山並んでゐる土手の所へ行つて、さういふことにはつねに十分馴れてゐるもののやうに、そこにゐる支那人の船頭に何か二言三言話しかけたが話はすぐきまつて、かれ等は船頭に導かれて、そのまゝ土手の下にたぶたぶ水に漂つてゐるベカにしてはいくらか大きい船に二人さし向ひになつて乘つた。

『あぶないね？大丈夫かね？』

『大丈夫ですとも――』

『深いんだらう』

『それは深いですけども、そんな心配はありませんの……』

『これでひつくりかへれば、それこそ本當にはお終ひだけども！』

いくらか輕い調子でBは言つた。

『本當ね』

彼女も片頬を笑ませた。

支那人の船頭が櫂を操るにつれて、ボートは靜かに川の上へ浮んで行つた。靜かな波が日影と共にキラキラと櫂に碎けた。

次第に離れて行く岸には、支那人やロシア人が大勢集まつて此方を見てゐた。中には此方を指して何か言つてゐるものなどもあつた。埠頭に立てられてある赤い旗のあたりには、ロシアの夫婦連が二組も手を組んで歩いて行くのが見えた。

『私も、[illegible]』

『ね、漕げるのかね？』

『漕げますとも――よく[illegible]一緒に來るんですの……』

『え、漕いで行くこともあるんですの――でもかうしてこの船に乘るの――彼方と一緒に乘らうなどとはいつ考へたでせうね！それを思ふと、もうこれで十分だ！ツて云ふ氣がしますねえ。矢張、あの時の夜の十字架のお蔭ね！』

『矢張、お互に心をなくさずに持つてゐたからだね！』

『本當ですね』

二人は戀の極致にでも達したやうな涙ぐましさを感ぜずにはゐられなかつた。お互に――本當にお互に心をなくさずに持つて來た。そのために、かうした心が開かれた。櫂に碎ける水の音が靜かにあたりに響いた。

◇

家庭不用品展覽會へ前農相前利定子がお古のシルクハツトを金十圓也で拂ひ下げた

朝鮮朝顔

（下）　劍花坊

腹の立つものは年増の斬なり

『貴郎と遊びたいの』

遊ぶ、と月山夫人が、ハッキリ云つたのは、かなり大膽にきこえたが、雪田には、なほそれに應ずる程の感が無いでは無い。

『遊びにも、いろ／＼有るのです』

雪田は鈍な、輿齒に物のはさまつたやうな言葉をする。

『遊び、といふことは女より殿方の方がよくわかつて居る筈よ。雪田さんが遊びのわからないやうな野暮だ、とはどうしても妾、信じ無いことよ、けれど、妾と遊ぶのは御嫌ひ？』

『いや、嫌ひでは無いです、貴方と遊ぶことは、或る光榮に思ふ位です』。

『じやア、大に遊びませうネ、今夜は……』。

『えい……』。

『泊つたて好いでせう』。

『泊つたつて構ひません、僕は獨身です、……が、奧さんは、よろしいですか、御泊りになつても』

『構はないわ、貴郎となら、泊つたつて好いわ』。

『月山さんが、何とか……』。

『措いて下さい……月山のことなんか云ひ出すのは……月山は、よく妾といふものを鑑賞して居るわよ、前に云つたやうに、解放しても間違ひは無い女だ、と信じて居ることよ』。

『それほど信じて居らつしやる御主人に對して……』。

『もうそんなことは云つこなし、かうして遊んで居る時に、そんな話しをすると、興も何も醒めて仕舞ふことよ、……さア雪田さん、醉いのが來たわ、御酌するわ』。

『おつと、暇りさま……こぼれるです』。

『どうせ、こぼれろわ、妾お婆アさんですもの、妾の盃では御迷惑に入らないでせう』。

『どう致しまして、大に光榮とするところです』。

『また光榮ですか、かたいことネ貴郎は、……オヤ、手を引ツこめて、……貴郎は、ほんとに初心ネ、妾は其處がたまらなく好きなの貴郎といふ者の好きなのは、そこんところよ、其純なる男性の心なの……世間に男も多い、隨分傑さうなことを誇り主は云つて、女の眼へ出ると、嘗に醉の醜よ、スグにいやなことを言ひ出したり、妙な謎をかけたり、さうして女といふとどうにでもなるものと思つてるの妾、あゝいふ男性は大嫌ひ！、だから雪田さんのやうな、初心な、純な、情の深さうな、若い男性が好きなの。

『大に感謝します、僕は大に婦人を尊敬する者です』。

『可愛がつて上げるわ、永く／＼親しい友達よ、さア握手しませう』。

『……………』。

斯うして酒を飲み、物を食ひ、甘ツたるい、蜜のやうな言葉をつゞけるうちに、夜は徐に更けた、女中が來て。

『もう十二時でございます、御床をのべませうか』

『アヽ、布いて頂戴』。

『ごいつしよでようございますか』。

『いやな人、別々よ』。

『この室でようございますか』。

『さう……、この旦那の御床は此處へのべて上げて下さい、さうしてね、妾のは、もちつと離れた、しづかなところ、布いて下さい』

『はい』

女中は去つた、夫人は妙な顔をして居る雪田に向ひ

『これなら李下の冠、瓜田の靴は無いでせう』

『さうです』

『貴郎と妾は純潔な交際だわネ』

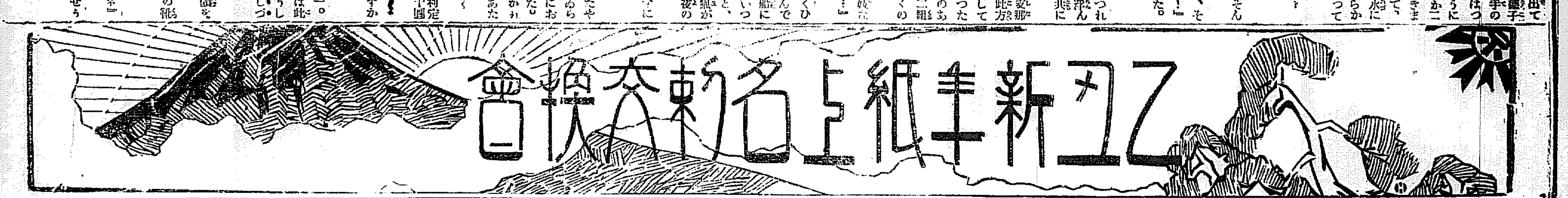
『さうです』

『きたなくしないやうにしませうね』

『さうです』

『雪田さんは立派な紳士ネ』

『さうです』（をはり）



今井修一

大工原銀太郎

[illegible]

澤田[illegible]

[illegible]耕平

[illegible]

[illegible]

[illegible]平吉

[illegible]香子

田中[illegible]一

大山[illegible]

[illegible]

て名刺交換會も中止せられ官吏の住宅の外は商家等は七五三飾り等をなさゞる向多く又官廳學校等に於て拜賀式を行はれたのみで而も風無き爲め非常に溫かく日中の

城津 三十一日より降雪あり元旦は積雪尺餘に達し氣溫零下二度にして近年稀に見る大雪なりしも官民合同の名刺交換會あり出席者二百餘名に達し一同祝杯を擧げ與

式を擧行せるが一般官民の參列者多く午前十一時より小學校に於て…倒した

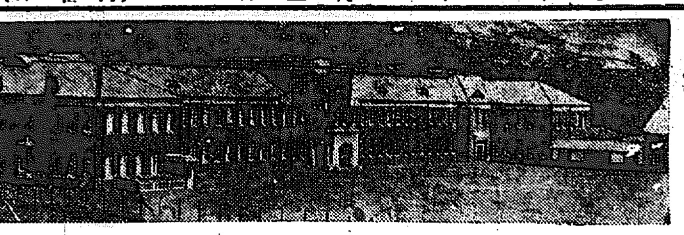
浦項 浦項面主催の下に午前十一時より浦項公立普通高等學校に於て新年名刺交換會を開催內鮮人

村浦項郵便局長の發聲にて天皇陛下の萬歲を三唱し正午盛會裡に散會した

清州 夜來の降雪に見渡す限り…賀式あり是と同時刻に小學校でも在清州各學校生徒の拜賀式を行ひ十一時より同所に於て名刺交換會を催し吉田面長の挨拶、祝盃を擧げ散會した

鳥致院 午前十一時より鳥致院公立小學校に於て拜賀式を行ひ引續き名刺交換會を盛大に擧行り、張知事を始め官民集まるもの五百名指定新松田管理者開會の辭を述べ君が代合唱、…所感希望、…の…裡に祝賀の歡びに滿ちて午後二時散會した

議政府 夜來の雪で一入お正月氣分を濃くした元旦の議政府では…通學校は同十一時より官民有志の參列を俟ちて夫々講堂に於いて莊嚴なる式を擧行した又正午より公會堂にて官民合同の名刺交換會が…る萬歲を三唱して午後二時盛會裡に散會したが夜に入りては…の祝賀會を始め…官民有志合同の…



「朝鮮二二」　咸興の小學校

咸興市の北盤龍山下の一角に聳ゆる公立小學校は客年九月新築された者である、該校舍は煉瓦建三階の堂々たる構造で講堂教室其他の附屬建物を合して總建坪五百四十二坪、新築工事費は十二萬圓である、新築問題が議案となつて上程せられるや、府民間に賛成論者と尚早論者とあつて容易に解決せず、口角泡を飛ばす喧嘩にまで進みしと云はれしほどであつて、外觀の美は勿論實に堂々たる大校舍である、普通教室十四の外唱歌室、理化室、裁縫室、職員室、應接室、其他を合し二十四室で設備の遺憾なき事は天下一品の觀がある、講堂の如きも百四坪の煉瓦造りで一千人の收容力を有し中學校の講堂としても恥づかしからぬ美的建築である、校舍の背後には北鮮に名も高き盤龍山を控へ前は咸興全市を呑み尚遠く二百里の廣漠たる咸興平野が展開するから陳設と云ひ位置と云ひ正に全鮮一として誇るに足る偉大なる營造物である

民謠への一考察

百田宗治

一

民謠とは一の時代、またはある特殊の政治的、社會的、或は鄕土的な特殊性ある環境から一の自然の聲として歌はれ、且傳へられるものであつて、その調べも低く（さういふ約束の下に生れることを本然とする故に一個人の作者の個性といふものは認識されず、否むしろ排斥され、失ひ去られる）且聲もまた卑近たるをまぬかれぬがしかしそこにまた（その故にこそ一層）特殊の人情味や風俗習慣の地方的特色が自づとしみ出て一種云ふに云はれぬ情趣に充たされてゐるのがその特徴である。

二

從つて民謠の藝術的價値といふものは、むしろそのプリミチーヴなところにあつて、それ自體が完成したものといふよりも、むしろ他の一の素材として、醱酵素として興味深いものがある。民謠にはそれが國の東西を問はずそれぞれ曲が附されて（或は自づと出來て）それぐ\各地方各民族特有の歌謠まはしで唄ひ傳へられる。そして民謠の效果といふものは單純なその歌詞にだけあるのでなくてこの特有の歌謠まはし——曲調によるものが多い、そこに民謠そのものゝ詩的價値が（內容の如何にかゝはらず）特に近代藝術詩以後の詩家の立場から見て多少減ぜられることになる、その歌詞が單純で、その單純な意を傳へることのみが主眼となるのだから（曲は附隨物—歌謠の場合ではこのワキが一層重要な働きをするけれども）その內容や表現に音樂的要素といふものが少しもない（日本の五七とか七五とかいふ韻律上の形式は嚴密にいつて音樂的要素といふものではない）從つて歌まはしがそれを補ふのである。

三

最近わが國の詩壇でもこの民謠の研究がさかんになつて、あたらしい民謠詩人などといふものも現出してゐる有樣であるが、しかしこの民謠の製作といふことはどういふものだらうと思ふ。一體民謠などゝいふものは自體が一個の明確な作者といふものが存在するのでなく、またさうでないところに民謠の價値があるのでそれは古ければ古いほどよく、そこに自ら角も除れ俗調といふものも自然的に融つてくるので、どちらかと云へば詩的觀念といふものが未だ幼稚で、今日のやうな進歩と理解を見せぬ時代に、一の止みがたいものゝかたちを以て歌はれ出たものゝ方が、吾々の興趣を惹くことも多いのである。あたらしい民謠として今日歌ひはやされてゐるものゝ中には相當立派な詩人の作なども交じつてゐるやうであるが、しかしてそこに何かしら一味の物足りなさ、不快なわざとらしさが漂つてゐはしまいか。

四

わたしとしては、反つて夫々の作品が眞に歌ひはやされるといふ事實を以て目的とせず一種民謠調を採つた立派な抒情詩の一つとして歷達せんことを希ひ、且その心を以て詩家の力作を歡迎したいと思ふ。その意味で、白秋氏の民謠的作品のあるもの、それからこれは少し古いが、綠雨夜雨氏の『おぼ』などをわたしは愛誦してゐるのである。

咸南警察部
面目を一新した
評判のよい吉村さん

咸南警察務部長、高等課長の吉村梁氏が警視に昇進の上轉任した、吉村課長は才氣煥發の手腕家で國境治安の高等事務には一意專心努力し少からぬ成績を擧げた評判者である、明晰なる頭腦に加へ社交も頗る巧で圓內の人氣は勿論民間の受けも頗る良好である、同氏が本道の警務課長の椅子に納まつて行政警察上最も必要なる警備事務其他人事機務等の事務に關し精服たる新進氣鋭の川崎警察部長の女房役としての活動は多大の望みを囑されて居る同氏の後任に永興警察署長の鈴木八十司氏が榮任した是又適材適所の配置で當然の歸結である鈴木氏は以前高等課長の椅子に在つて卓越した腕の冴を發揮した人、揃ひも揃つた兩者の新鋭なる手腕と深甚なる識見は本道警察界の爲めに見るべき效果少からぬと一般に刮目して將來を期待して居る（咸興）

餠を黴させぬ法

酒樽の中へ入れて置いても宜しいが、それよりも石油の空罐の底に穴を作り空罐に火をつけて油氣を無くして後、木繩毀に約百匁ほどの繩の粕をつめたものを餠と共に入れて置くと決して黴びません

牛に關する諺（一）

京城中學校教諭　山下藤次郎

▽牛に汗し棟に充つ　支那の古諺、藏書の多いことを誇張して言つたものである。車に積めば牛に汗をかかせ、家に積めば棟木につかへるほどあるとの意

▽牛に引かれて善光寺參り　人に連れられて偶然に趣るといふ意。昔信濃の善光寺附近に七十に餘る老婆があつたが、邪慳な性質で、また寺詣にまゐつたこともなかつた。或時隣家の牛が放れて、晒しておいた布を角にひつかけて逃げた。婆さんは牛を追つて走つたが牛は善光寺の境內目がけて走り込んだので、婆さんも善光寺にかけこんだ。婆さんは初めてそこが靈場であることを知つて、それから發心歸依して後生を願ひ、殊勝な婆さんになつたといふ。

△寧ろ鷄口となるとも牛後と爲るな　支那の古諺、鷄口は小さくてもよく食を進める、牛の尻は大きくても穢を出す。小さくとも利あるところにつけ、大きくとも禍ひある所を避けよといふ意であるが、普通には大きな所の末席に居るよりは小さくとも首席に居よとの意味に用ひられる。

△暗がりから牛をひき出したやう　物のあざやかならずして鮮明しないことの譬喩、牛は元來ぼんやりした、はつきりせぬ、暗まりの色であるから、それを暗がりから曳き出しては一層明瞭をかくわけである。面白い譬喩である。これを鈍愚であるとの意味に解するのは誤りである。

△女賢しうして牛賣りそこなふ　女の賢いのは却て事を損ずるといふ意。

朝鮮商業銀行　清州支店

清州金融組合

鎭川警察署長　小林秋太郎

清州旭町通　倉原菓子店

鎭川金融組合理事　瓜生定吉

清州本町三丁目　文具印刷　ハカマダ商會

清州北町　土木請負業　竹下彥造

鎭川學校組合管理者　精米業　川島晉市

鎭川　上村旅館

四州面長　韓性教

清州驛前　㋠運送店

清州本町六丁目　さい娘醸造元　高見酒造場

清州市場町　服部精米店

清州本町　アオキピリン本舖　電話四五番

清州本町三丁目　水井自轉車店

清州本町三丁目　食道樂　喜樂

清州榮町　道評議員　龐寅赫

清州西町　撞球　清州俱樂部

新義州郵便局　職員一同

清州警察署員一同

清州本町五丁目　土木請負業　前田組　同火藥銃砲部

清州郡廳　同農會　森林組合

清州慈惠醫院　職員一同

朝鮮鐵道清州出張所　所長　秋本達太郎　同　守田廣助　同助役　平岡金平　清安驛長　倉増多兵衛

京城東寳居清州出張所　高橋六左衛門

清州本町三丁目　料理文化亭　龜島萬藏　電話一三四番

書籍雜誌電氣器具　佐竹文房具店　清州本町三丁目　電話一四一番

大田電氣會社　清州出張店

清州本町三丁目　濱田洋服店

清州驛前　㋣運輸會社

清州本町三丁目　山本重太郎

清安驛　清安穀物協會

忠清北道廳　食堂會

清州料理屋組合

清州北町　忠北無盡株式會社

清州郵便局　職員一同

平安北道　新義州及郡部（イロハ順）

新義州金融組合理事　伊藤茂雄
第二守備隊長步兵中佐　林成三
碧潼警察署長　橋口正義
新義州地方法院檢事正　堀江幸市
新義州消防組頭 新義州府協議員　岡本茂
義州警察署長　小川懷光
[illegible]　大賀文喜
[illegible]　渡邊カノ子
平北道評議員（中江鎭）　和氣義矩
新義州國境設置期成會長 平北道評議員　加藤鉄治郎
王子製紙株式會社　橫井半三郎
平北水產會長 平北道評議員（龍岩浦）　吉田雅一
新義州警察署長　米山金作
新義州商業會議所　田中健士
平北道評議員 鴨綠江築港期成同盟會　多田榮吉
專賣局新義州出張所長　高橋千代治
新義州地方法院長　津守萬吉
新義州學校組合議員　永井寬龍
江界憲兵分隊長　村橋勇
義州郡守　山吉節太郎
新義州府協議員　增田光平
[illegible]　每熊雄次郎
新義州府尹　藤谷作次郎
江界電氣株式會社取締役　小畑豐次郎
楚山警察署長　小林守義
朝鮮銀行新義州支店長　青木咲吉
新義州電氣株式會社支配人 江界電氣株式會社取締役　足立秋生
新義州製材株式會社長　阿部國造
平北金融組合聯合會理事長　齋藤清治
朝鮮鐵材株式會社新義州支店長　鬼頭虎藏
龍川郡守　姜鳳瑞
碧潼郡守　金圭承
渭原郡守　金禮顯
殖產銀行新義州支店長　三宅富治
新義州電氣株式會社長 新義州地方法院所屬辯護士　神保信吉
宮川支店經營者　毛利好彥
新義州地方法院江界支廳判事　稻垣長七
多田商會支配人　河野慶治

日本共立火災保險株式會社
資本金五百萬圓
一、當會社は確實を本旨とし御便利に業務御取扱可申候
一、當會社は損失を公平且つ迅速に支拂可申候
電話又は御一報次第社員參上可仕候
本社　東京市麴町區有樂町一四三番地　專務取締役　原錦吾
京城出張所　京城府本町三丁目三九番地　電話本局一五六六番　出張所長　三鍋才次郎
鮮內代理店所在地　京城、平壤、仁川、釜山、大邱、大田、鳥致院、木浦、光州、群山、全州、裡里、江景、鎭海、馬山、統營、麗水、浦項、羅南、會寧、淸津、元山、咸興、城津、新義州、鎭南浦、沙里院、海州、…

間島龍井村
京城日報間島支局
後援者有志一同

間島龍井村　伊丹組　電話五四番
咸鏡北道羅南　伊丹組出張所　電話一四五番
間島龍井村　吉田運輸間島出張所　電話一八一五番
內國通運間島荷扱所　電話一七二番

賞金屋美術品製作　增屋製作所　全州大正町二丁目

龍井金融部

龍井村　石橋正平

間島龍井村　伊藤竹次郎

間島龍井村　濱工務所　電話九三番

江界電氣株式會社　社長　足立長七

全羅北道廳　食堂員一同

全州土木請負業共榮會　會長　宮崎吉造　西村茂市　吉村末吉　武田純一郎　中山勘九　清水豐松

全州土木建築請負業組合　[illegible]

株式會社　鴨綠江輪船公司

新義州穀物信託株式會社

新義州木材商組合

多田商會本店

朝鮮總督府營林廠
各種木材

黄海道 兼二浦驛長 砂金榮之助

兼二浦料理店組合 清繁 八百菊 三福 三木屋

黄海道兼二浦 三星商會 田部健次 電話六八番

黄海道兼二浦 大和組出張所 電話三三番

黄海道兼二浦明治町 土木建築請負業 中務吉三郎 電話五七番

黄海道 兼二浦郵便局長 池田寛

大邱府田町 土木建築請負業 加茂儀作 電話一六九番

慶北一手販賣元 泰平酒造元 大邱府三笠町 大邱酒造株式會社 專務取締役 寺田善作 電話三四六番 振替京城六六三七番

辯護士 井浦義久法律事務所 事務所 大邱府東城町二ノ五四 電話一一三七番 自宅 大邱府東雲町 電話一一三六番

慶尚北道 蠶種製造同業組合

大邱公立農業學校長 福島百藏

大邱府幸町 土木建築 請負業 田淵彦四郎 電話三〇九番

大邱府龍岡町 土木建築 請負業 田村源藏 電話四六番

大邱府南龍岡町 土木建築 請負業 岡本小三郎 電話五三九番

慶北浦項 浦項郵便局長 澤村義盛

內外米穀肥料商 佐藤伊三郎商店 多木製肥料特約販賣 朝鮮大邱府市場町 電話四一番

平安南道 成川郡職員一同

平安南道 成川金融組合 職員一同

平安南道 成川郵便所長 山下金次郎

平安南道陽德郡 九龍森保護區 中島安平 外職員一同

平安南道勸業課 陽德出張所 井久保償藏

平安南道 陽德公立普通小學校 氏家亘

平安南道 九龍公立普通學校長 高橋勝次

平安南道 九龍郵便局長 間永棋吉

平安南道 九龍金融組合

平安南道 陽德郡新邑 時弘德右衛門

平壤地方法院 陽德出張所 須田彦三郎

平安南道 江東郡職員一同

新義州稅關 穗積眞六郎 家守要 古川作太郎 福田勘助 長谷正夫

新義州土曜會

營林廠食堂員一同

新義州電氣株式會社

營林廠大口取引 久富商店木材部 本店 新義州 支店 下開

王子製紙株式會社 朝鮮分社 新義州

不二西鮮農場

大正水利組合 平北龍川郡

平安北道廳 高等官食堂員一同

間島龍井村 鹽澤茂

間島龍井村 山田洋行 伊藤福一

間島龍井村 此田辰之助

延吉六道溝 富美洋行 加古二郎

龍井村海關 中村元 電話一九一番

忠南公州 辯護士 林昌洙

公州郵便局長 佐野直喜

忠南公州本町 洋品店 宇山支店 電話一七四番

忠南公州錦町 米穀商 中村商店 電話六八番

喪中年賀缺禮 裵相斗 電話一四九番

忠南公州高等普通學校 職員一同

殖産銀行 公州支店 和田重政

忠南公州 外山喜右衛門

ラージ プリミヤ自轉車特約店 瀧川銃砲店公州支店

忠南公州本町 食道樂 仕出し うきよ 電話一二一番

忠南公州 和洋料理 文化 電話九三番

忠南公州 御料理 湖月

忠南公州旭町 平田印刷所 平田正亮

忠南公州 藤澤英夫 電話五三番

和洋酒類 食料雜貨 藤澤支店 忠南公州旭町

忠南公州本町 牧野秀松 電話六六番

忠南 公州刑務所 雄心會一同

忠南公州本町 河野旅館 電話五〇番

公州本町 常盤旅館 電話三〇番

忠南公州本町 煙草元賣捌 特約販賣 岩崎商店 電話一六七番

公州警察署長 小澤昇 忠南公州

公州面長 小林增太郎 忠南公州

山南庄次郎 公州郡公州面旭町

全州本町三丁目 辯護士久永麟一 電話五八番

全州八達町 洋服商松井辰雄

全州大正町一丁目 御菓子 ズボラ堂 電話一〇六番

全羅北道評議會員 大木良作

全州慈惠醫院 職員一同

內國通運株式會社京城支店 全州荷扱所 全州高砂町

全州酒造組合 若松正宗 若松屋酒造所 大正正宗 吉村酒造所 國[illegible] 川村酒造所 安國 安武酒造所 會心 會津屋酒造所

全州本町二丁目 全北自動車商會 電話長距離二四九番

全州多佳町 西洋料理 三陽軒 電話一〇九番

全州八達町 二葉本店 電話二八六番

全州遊廓組合 (順不同) [illegible]

全羅北道金融組合聯合會 全州金融組合 裡里金融組合 完山金融組合 臨陂金融組合 益山金融組合 高山金融組合 礪山金融組合 茂朱金融組合 南原金融組合 淳昌金融組合 金堤金融組合 泰仁金融組合 井邑金融組合 高敞金融組合 礪山金融組合 新泰仁金融組合 金池金融組合 萬頃金融組合 群山金融組合 益城金融組合 沃溝金融組合 咸悅金融組合 參禮金融組合 鎭安金融組合 任實金融組合 雲峰金融組合 長水金融組合 扶安金融組合 鳳北金融組合 古阜金融組合 茂長金融組合 黃登金融組合 [illegible]金融組合 興德金融組合 院坪金融組合

任實郡廳職員一同

全州高砂町 土木建築 請負業 坂本榮三郎 牧野正太郎

全州專賣支局 庶務課長 永谷重治 製造課長 青山繁 事業課長 吉永純一

仁川 高橋謙三

全羅南道 順天警察署長 太田愛五郎

仁川 平岡宇太郎

全羅南道順天郡廳 職員一同

仁川宮町 磯永洋服店 電話二一五番

朝鮮製油株式會社 朝鮮木浦

仁川商町四十一番地 魚物商 鄭世澤

大阪商船木浦代理店 福田回漕部 木浦 電話十二番・十七番

仁川 具昌祖

木浦 貿易商 內谷萬平商店

仁川本町三丁目 井水醫院

木浦海運株式會社

木浦府尹 飛鋪秀一

木浦農談會

木浦金曜會

木浦電燈株式會社

木浦無盡株式會社

株式會社旭魚市場

木浦醬油株式會社

木浦穀物商組合

靈光郡廳職員一同

靈光郡棉作組合

靈光郡畜產同業組合

靈光郡蠶業組合

靈光森林組合聯合組合

靈光郡農會

慶南金融組合聯合會

株式會社晋州商友會 晋州煙草元賣捌株式會社

櫻正宗 ビール 晒粉 森永菓子 紀州みかん 晋州商業組合 組合長 谷口秀輔

晋州自動車組合

慶南晋州 雜貨商 閒嶋佐七郎商店

晋州俱樂部

晋州郡守 山下正道

晋州農會 職員一同

慶南晋州 柿部實之

慶南山淸 山淸郡廳員

晋州刑務所 晋州支所 職員一同

慶尚北道原蠶種製造所長 矢澤茂登一

大邱府公設市場內 鮮魚・干物 御用達 村井致部 電話三九番

大邱府幸町 山崎氷室 電話一〇九番

乾物海産物酒類 問屋業 勝丸商店 電話長二二一番

歐米雜貨 化粧品 旅行用具 小間物 小島百貨店 大邱府東城町 電話一〇二〇番

慶北浦項 拓産社 電話一二番

朝鮮慶南晋州 辯護士 原田定造法律事務所 電話五七番

鎭海 松尾重信

慶尚南道廳食堂

晋州精米所

慶尚南道晋州 淸水佐太郎

慶尚南道晋州慈惠醫院 院長 西直忠

慶南 咸陽郡廳職員一同

忠淸南道 金融組合聯合會一同

鳥致院水曜會 市野澤丙之助 花田金之助 岡本鐵七郎 堤朝光 中島隆衛 中林辛之吉 武藤利三郎 內田光重 福永淳八 饗庭英二郎 佐々木橋準次郎 平岩氏貞 森勝富太郎

忠南公州 郡廳員一同

忠南公州本町 朝鮮自動車運輸株式會社

朝鮮興業株式會社 公州支店 支配人 田口一

忠南公州 公州電氣株式會社 支店長 服部敬

忠南道公州郡公州面本町四十二番地 南鮮興業株式會社

忠南公州 手島旭章 堀旭龍 壬利旭公 出村旭閃

忠南道立師範學校 職員一同

尨大なる米陸軍豫算

聯合國對獨通告

英銀總裁訪米

各地の元旦